



Nissan Chemical
CORPORATION

未来のための、はじめてをつくる。

2023年3月期 第3四半期 決算説明会

説明者 大門秀樹(取締役常務執行役員CFO)

2023年2月10日



**Institutional
Investor**

2022 JAPAN EXECUTIVE TEAM

MOST HONORED COMPANY

NISSAN CHEMICAL CORP.

Contents

01

2022年度第3四半期 連結決算報告

P3

02

2022年度通期 業績予想

P11

03

セグメント概況

P16

04

ESGトピックス

P45

05

参考資料

P54

Contents

01

2022年度第3四半期 連結決算報告

P3

02

2022年度通期 業績予想

P11

03

セグメント概況

P16

04

ESGトピックス

P45

05

参考資料

P54

3Q

前年同期比

- 売上高は、2億円増収(+0%)
- 営業利益は、20億円減益(-16%)
- 純利益は、22億円減益(-24%)

1-3Q
累計※1

前年同期比

- 売上高は、179億円増収(+13%)
- 営業利益は、49億円増益(+14%)
- 純利益は、52億円増益(+20%)
- 営業利益・経常利益・純利益は、1-3Q累計で2年連続で過去最高益を更新

3Q

業績予想比

(2022年11月発表予想との比較)

- 売上高は、予想通り
- 営業利益は、7億円上ぶれ
- 純利益は、予想通り

株主還元の様況

- 中間配当70円(前年比20円増配)
- 自己株式取得 2022年5~6月 50億円完了(683千株)

※1 以後、1-3Qと記載

2022年度3Q決算サマリー 前年同期比

(億円)

	2021年度 実績			2022年度 実績			前年同期比		
	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q
売上高	918	495	1,413	1,095	497	1,592	+177 (+19%)	+2 (0%)	+179 (+13%)
営業利益	213	126	339	282	106	388	+69 (+32%)	-20 (-16%)	+49 (+14%)
営業外損益	10	9	19	38	-13	25	+28	-22	+6
経常利益	223	135	358	320	93	413	+97 (+44%)	-42 (-31%)	+55 (+16%)
特別損益	0	2	2	0	0	0	0	-2	-2
純利益 ^{※1}	163	93	256	237	71	308	+74 (+45%)	-22 (-24%)	+52 (+20%)
EBITDA ^{※2}	260	152	412	333	135	468	+73	-17	+56
EPS(円/株)	113.94	65.64	179.58	167.74	50.25	217.99	+53.80	-15.39	+38.41
配当(円/株)	50	-	50	70	-	70	+20	-	+20
配当総額	71	-	71	99	-	99	+28	-	+28
売上高営業利益率	23.2%	25.5%	24.0%	25.7%	21.4%	24.4%	+2.5pt	-4.1pt	+0.4pt
為替レート(円/ドル)	110	114	111	134	141	137	-	-	-
原油(JCC)(ドル/bbl) ^{※3}	70	80	74	112	100	108	-	-	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す

※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

※3 実績は財務省貿易統計ベース

2022年度3Q決算サマリー 業績予想比

(億円)

	2022年度 予想 (2022年11月発表)		2022年度 実績		業績予想比
	3Q	1-3Q	3Q	1-3Q	3Q
売上高	497	1,592	497	1,592	0
営業利益	99	381	106	388	+7
営業外損益	-1	37	-13	25	-12
経常利益	98	418	93	413	-5
特別損益	0	0	0	0	0
純利益※1	71	308	71	308	0
EBITDA※2	-	-	135	468	-
EPS(円/株)	-	-	50.25	217.99	-
配当(円/株)	-	70	-	70	0
配当総額	-	99	-	99	0
売上高営業利益率	19.9%	23.9%	21.4%	24.4%	-
為替レート(円/ドル)	135	134	141	137	-
原油(JCC)(ドル/bbl)※3	110	111	100	108	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す

※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

※3 実績は財務省貿易統計ベース

3Q

2022年度 実績		2021年度 実績		前年同期比		業績予想		業績予想比		
106 億円		126 億円		-20 億円(-16%)		99 億円		+7 億円		
化学品	前年同期比	-9億円	メラミン(終売)・テピックの減収、原燃料高			業績予想比	5億円下ぶれ	テピック・環境化学品の下ぶれ、原燃料高		
	機能性材料	前年同期比	-7億円	ディスプレイの減収、固定費増加			業績予想比	12億円下ぶれ	半導体の下ぶれ	
農業化学品	前年同期比	+1億円	フルララネル・グレーシアの好調			業績予想比	15億円上ぶれ	フルララネル(原薬出荷前倒し・ロイヤリティ収入上ぶれ)・グレーシア・パーミットの上ぶれ		
	ヘルスケア	前年同期比	-3億円	リバロ・ファインテックの減収			業績予想比	1億円下ぶれ	リバロの下ぶれ	

1-3Q

2022年度 実績		2021年度 実績		前年同期比	
388 億円		339 億円		+49 億円(+14%)	
化学品	前年同期比	-10億円	メラミン(終売)の減収、原燃料高		
機能性材料	前年同期比	+1億円	ディスプレイ市場減速、固定費増加も、上期までの半導体の好調により増益		
農業化学品	前年同期比	+53億円	主要製品の販売好調		
ヘルスケア	前年同期比	-2億円	リバロ・ファインテックの減収		

営業外損益・特別損益の内訳

(億円)

	2021年度 実績			2022年度 実績			前年同期比		
	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q
営業外収益	13.6	10.5	24.1	44.3	-8.7	35.6	+30.7	-19.2	+11.5
受取利息・配当金	3.2	2.3	5.5	4.5	3.1	7.6	+1.3	+0.8	+2.1
為替差益	1.0	2.1	3.1	30.2	-21.1	9.1	+29.2	-23.2	+6.0
持分法投資損益 他	9.4	6.1	15.5	9.6	9.3	18.9	+0.2	+3.2	+3.4
営業外費用	4.2	1.5	5.7	6.0	4.3	10.3	+1.8	+2.8	+4.6
支払利息	0.5	0.1	0.6	0.9	0.8	1.7	+0.4	+0.7	+1.1
為替差損	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
固定資産処分損 他	3.7	1.4	5.1	5.1	3.5	8.6	+1.4	+2.1	+3.5
営業外損益	9.4	9.0	18.4	38.3	-13.0	25.3	+28.9	-22.0	+6.9
特別利益	28.2	5.0	33.2	0.0	0.0	0.0	-28.2	-5.0	-33.2
特別損失	27.9	3.0	30.9	0.0	0.0	0.0	-27.9	-3.0	-30.9
特別損益※1	0.3	2.0	2.3	0.0	0.0	0.0	-0.3	-2.0	-2.3

※1 2021年度1-3Q実績:

特別利益+33.2億円(有価証券売却益33.2億円・売却額42.5億円、7銘柄(うち1銘柄保有全株数売却))

特別損失-30.9億円(メラミン構造改善費用21.6億円、日本燐酸設備撤去費用6.3億円、出資先(非上場会社)にかかる保有株式減損3.0億円)

*日本燐酸: 当社関連会社(出資比率35%)、硫酸および燐酸液の製造・販売。燐酸液の製造停止決定に伴い、出資比率に応じて設備撤去費用等を負担

2022年度1-3Q実績のフリー・キャッシュ・フローは243億円となり、前年同期比39億円の減少

(億円)

	2021年度 実績	2022年度 実績	前年同期比
	1-3Q	1-3Q	
営業活動によるキャッシュ・フロー	350	378	+28
税金等調整前純利益	360	413	+53
特別損益(マイナスは益)	-2	0	+2
減価償却費※1	73	80	+7
法人税等の支払	-128	-150	-22
運転資金増減他	47	35	-12
投資活動によるキャッシュ・フロー	-68	-135	-67
設備投資	-62	-118	-56
投資有価証券購入・売却	40	0	-40
その他※2	-46	-17	+29
フリー・キャッシュ・フロー	282	243	-39
財務活動によるキャッシュ・フロー	-355	-375	-20
株主還元(配当)	-155	-201	-46
株主還元(自己株式取得)	-70	-50	+20
借入金増減	-130	-123	+7
その他	0	-1	-1
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	14	+13
現金及び現金同等物の増減額	-72	-118	-46
連結範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	0	31	+31
現金及び現金同等物の残高	252	259	+7

※1 のれん償却費を含む ※2 2021実績:NBRへの長期貸付-33、他-13

貸借対照表

(億円)

	2021年12月末	2022年3月末	2022年12月末	前期末比
流動資産	1,510	1,753	1,674	-79
現預金	252	347	259	-88
売上債権	606	800	612	-188
たな卸資産	581	522	702	+180
その他	71	84	101	+17
固定資産	1,037	1,044	1,092	+48
有形固定資産	519	532	620	+88
無形固定資産	119	118	118	0
投資有価証券	308	302	296	-6
その他	91	92	58	-34
資産合計	2,547	2,797	2,766	-31

	2021年12月末	2022年3月末	2022年12月末	前期末比
負債	553	717	604	-113
買入債務	196	190	238	+48
借入金	98	227	108	-119
その他	259	300	258	-42
純資産	1,994	2,080	2,162	+82
株主資本 ^{※2}	1,886	1,967	2,025	+58
その他有価証券評価差額金	83	83	83	0
為替換算調整勘定	1	9	20	+11
非支配株主持分	20	21	30	+9
退職給付に係る調整累計額	4	0	4	+4
負債純資産合計	2,547	2,797	2,766	-31

自己資本比率	77.5%	73.6%	77.1%
D/Eレシオ ^{※3}	-8.1%	-6.1%	-7.5%

投資有価証券(固定資産)の内訳

	2021年3月末	2021年12月末	2022年3月末	2022年12月末	前期末比
上場株式 ^{※1} (単体ベース保有銘柄数)	244 (31)	191 (30)	189 (30)	183 (29)	-6 (-1)
非上場株式	27	25	26	30	+4
関係会社株式	88	92	87	83	-4
合計	359	308	302	296	-6

※1 22/3末 189 +取得0 +売却・評価差額-6 =22/12末 183

※2 株主資本増減 +58 = 純利益308 - 配当その他250

※3 D/Eレシオ = (借入金 - 現金預金) / 株主資本

※4 政策保有株式割合 =

政策保有株式(単体ベース、上場株+非上場株) / 純資産(連結ベース)
各期の政策保有株式(単体、億円)は、

21/3末 248、21/12末 198、22/3末 198、22/12末 197

純資産に占める 政策保有株式の割合 ^{※4}	12.4%	9.9%	9.5%	9.1%
------------------------------------	-------	------	------	------

Contents

01

2022年度第3四半期 連結決算報告

P3

02

2022年度通期 業績予想

P11

03

セグメント概況

P16

04

ESGトピックス

P45

05

参考資料

P54

通期業績予想を下方修正(2022年度通期営業利益:534億円)

3Q累計実績および4Qの見通しを踏まえ、**前回発表予想を修正**

通期	前年同期比	<ul style="list-style-type: none"> ■ 売上高は215億円増収(+10%) ■ 営業利益は24億円増益(+5%)、純利益は33億円増益(+9%) ■ 営業利益・経常利益は9年連続、純利益は10年連続、過去最高益を更新 ■ ROE予想は19.7%
通期	前回業績予想比 (2022年11月発表予想との比較)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 売上高は47億円下ぶれ(-2%) ■ 営業利益は21億円下ぶれ(-4%) ■ 純利益は予想通り
下期	前年同期比	<ul style="list-style-type: none"> ■ 売上高は38億円増収(+3%) ■ 営業利益は45億円減益(-15%)、純利益は41億円減益(-18%)
下期	前回業績予想比 (2022年11月発表予想との比較)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 売上高は47億円下ぶれ(-4%) ■ 営業利益は21億円下ぶれ(-8%) ■ 純利益は予想通り

株主還元予想

- 中計目標に基づき、総還元性向目標は75%、配当性向目標は55%(2022年5月発表から変更なし)
- **自己株式取得40億円を発表(総還元性向76.1%)**

配当	通期 164円 中間 70円 、期末 94円 、配当性向54.9% 【前年比】中間20円増配、期末22円増配 【2022年11月発表予想比】期末予想通り
自己株式取得	通期90億円(2021年度実績 120億円、2,033千株) <ul style="list-style-type: none"> ● 50億円、683千株取得済(2022年5~6月) ● 40億円、1,000千株取得予定(2023年2月~4月) 【前期比】30億円減額 【2022年11月発表予想比】40億円増額
自己株式消却	1.7百万株消却済(2022年5月、8月)
総還元性向	配当164円と自己株式取得90億円に基づけば76.1%(2021年度実績75.6%)

2022年度業績予想サマリー 前年同期比

(億円)

	2021年度 実績					2022年度 業績予想 (2023年2月発表)					前年同期比				
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期 実績	3Q 実績	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高	918	495	667	1,162	2,080	1,095	497	703	1,200	2,295	+177 (+19%)	+2 (0%)	+36 (+5%)	+38 (+3%)	+215 (+10%)
営業利益	213	126	171	297	510	282	106	146	252	534	+69 (+32%)	-20 (-16%)	-25 (-14%)	-45 (-15%)	+24 (+5%)
営業外損益	10	9	8	17	27	38	-13	-4	-17	21	+28	-22	-12	-34	-6
為替換算損益	1	2	8	10	11	30	-21	-12	-33	-3	+29	-23	-20	-43	-14
経常利益	223	135	179	314	537	320	93	142	235	555	+97 (+44%)	-42 (-31%)	-37 (-21%)	-79 (-25%)	+18 (+3%)
特別損益	0	2	3	5	5	0	0	15	15	15	0	-2	+12	+10	+10
純利益※1	163	93	132	225	388	237	71	113	184	421	+74 (+45%)	-22 (-24%)	-19 (-14%)	-41 (-18%)	+33 (+9%)
EBITDA※2	260	152	200	352	612	333	135	181	316	649	+73	-17	-19	-36	+37
EPS(円/株)	113.94	65.64	92.30	157.94	271.88	167.74	50.25	80.62	130.87	298.61	+53.80	-15.39	-11.68	-27.07	+26.73
配当(円/株)	50	-	-	72	122	70	-	-	94	164	+20	-	-	+22	+42
配当性向(%)	-	-	-	-	44.9%	-	-	-	-	54.9%	-	-	-	-	+10.0pt
配当総額	71	-	-	102	173	99	-	-	132	231	+28	-	-	+30	+58
売上高営業利益率	23.2%	25.5%	25.5%	25.5%	24.5%	25.7%	21.4%	20.8%	21.0%	23.3%	+2.5pt	-4.1pt	-4.7pt	-4.5pt	-1.2pt
ROE	-	-	-	-	19.2%	-	-	-	-	19.7%	-	-	-	-	+0.5pt
為替レート(円/ドル)	110	114	116	115	112	134	141	130	136	135	-	-	-	-	-
原油(JCC)(ドル/bbl)※3	70	80	86	83	77	112	100	100	100	106	-	-	-	-	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す

※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

※3 実績は財務省貿易統計ベース

2022年度業績予想サマリー 前回業績予想比

(億円)

	2022年度 業績予想 (2022年11月発表)					2022年度 業績予想 (2023年2月発表)					前回業績予想比		
	上期 実績	3Q	4Q	下期	年間	上期 実績	3Q 実績	4Q	下期	年間	3Q	4Q	下期・年間
売上高	1,095	497	750	1,247	2,342	1,095	497	703	1,200	2,295	0	-47	-47
営業利益	282	99	174	273	555	282	106	146	252	534	+7	-28	-21
営業外損益	38	-1	-9	-10	28	38	-13	-4	-17	21	-12	+5	-7
為替換算損益	30	-10	-10	-20	10	30	-21	-12	-33	-3	-11	-2	-13
経常利益	320	98	165	263	583	320	93	142	235	555	-5	-23	-28
特別損益	0	0	0	0	0	0	0	15	15	15	0	+15	+15
純利益※1	237	71	113	184	421	237	71	113	184	421	0	0	0
EBITDA※2	333	-	-	337	670	333	135	181	316	649	-	-	-21
EPS(円/株)	167.74	-	-	130.85	298.59	167.74	50.25	80.62	130.87	298.61	-	-	+0.02
配当(円/株)	70	-	-	94	164	70	-	-	94	164	-	0	0
配当性向(%)	-	-	-	-	54.9%	-	-	-	-	54.9%	-	-	-
配当総額	99	-	-	132	231	99	-	-	132	231	-	-	-
売上高営業利益率	25.7%	19.9%	23.2%	21.9%	23.7%	25.7%	21.4%	20.8%	21.0%	23.3%	-	-	-
ROE	-	-	-	-	19.7%	-	-	-	-	19.7%	-	-	-
為替レート(円/ドル)	134	135	135	135	135	134	141	130	136	135	-	-	-
原油(JCC)(ドル/bbl)※3	112	110	110	110	110	112	100	100	100	106	-	-	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す

※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

※3 実績は財務省貿易統計ベース

営業利益の増減分析

		2022年度 予想 (2023年2月発表)	2021年度 実績	前年同期比	前回予想(2022年11月発表)	前回業績予想比
		252 億円	297 億円	-45 億円(-15%)	273 億円	-21 億円
下期	化学品	前年同期比	-20億円	メラミン(終売)・テピックの減収、原燃料高		
		業績予想比	8億円下ぶれ	高純度硫酸・テピック・環境化学品の下ぶれ		
	機能性材料	前年同期比	-22億円	ディスプレイの減収、固定費増加		
		業績予想比	41億円下ぶれ	ディスプレイ・半導体の下ぶれ		
	農業化学品	前年同期比	+2億円	主要品目の販売好調で増収		
		業績予想比	16億円上ぶれ	主要製品の販売好調、固定費下ぶれにより利益上ぶれ		
	ヘルスケア	前年同期比	横ばい			
		業績予想比	1億円上ぶれ	ファインテック上ぶれ		

		2022年度 予想 (2023年2月発表)	2021年度 実績	前年同期比
		534 億円	510 億円	+24 億円(+5%)
通期	化学品	前年同期比	-21億円	メラミン(終売)・テピックの減収、原燃料高
	機能性材料	前年同期比	-14億円	ディスプレイの減収、固定費増加
	農業化学品	前年同期比	+54億円	主要製品の販売好調で増収
	ヘルスケア	前年同期比	+1億円	ファインテック増収

Contents

01

2022年度第3四半期 連結決算報告

P3

02

2022年度通期 業績予想

P11

03

セグメント概況

P16

04

ESGトピックス

P45

05

参考資料

P54

セグメント別 2022年度通期 前年同期比

(億円)

		2021年度 実績					2022年度 予想 (2023年2月発表)					前年同期比				
		上期	3Q	4Q	下期	年間	上期 実績	3Q 実績	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
化学品	売上高	171	105	100	205	376	198	101	98	199	397	+27 (+16%)	-4 (-4%)	-2 (-2%)	-6 (-3%)	+21 (+5%)
	営業利益	12	13	13	26	38	11	4	2	6	17	-1 (-9%)	-9 (-67%)	-11 (-84%)	-20 (-76%)	-21 (-55%)
機能性材料	売上高	396	209	212	421	817	420	206	209	415	835	+24 (+6%)	-3 (-1%)	-3 (-1%)	-6 (-1%)	+18 (+2%)
	営業利益	131	76	69	145	276	139	69	54	123	262	+8 (+6%)	-7 (-8%)	-15 (-22%)	-22 (-15%)	-14 (-5%)
農業化学品	売上高	250	119	289	408	658	357	131	326	457	814	+107 (+43%)	+12 (+10%)	+37 (+13%)	+49 (+12%)	+156 (+24%)
	営業利益	69	30	82	112	181	121	31	83	114	235	+52 (+75%)	+1 (+3%)	+1 (+1%)	+2 (+2%)	+54 (+30%)
ヘルスケア	売上高	33	20	13	33	66	32	16	18	34	66	-1 (-3%)	-4 (-17%)	+5 (+35%)	+1 (+4%)	0 (+1%)
	営業利益	14	9	5	14	28	15	6	8	14	29	+1 (+5%)	-3 (-27%)	+3 (+45%)	0 (-2%)	+1 (+2%)
卸売・その他・ 調整額	売上高	68	42	53	95	163	88	43	52	95	183	+20	+1	-1	0	+20
	営業利益	-13	-2	2	0	-13	-4	-4	-1	-5	-9	+9	-2	-3	-5	+4
合計	売上高	918	495	667	1,162	2,080	1,095	497	703	1,200	2,295	+177 (+19%)	+2 (0%)	+36 (+5%)	+38 (+3%)	+215 (+10%)
	営業利益	213	126	171	297	510	282	106	146	252	534	+69 (+32%)	-20 (-16%)	-25 (-14%)	-45 (-15%)	+24 (+5%)

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ 卸売：日星産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・日本肥糧ほか、調整額：企画本部ほか(内訳はp65,p66参照)

※ 企画本部の2021年度実績、2022年度予想(2023年2月発表)の売上高・営業利益はp55に記載

※ 2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p68,p69参照)

セグメント別 2022年度通期 前回業績予想(11月発表)比

(億円)

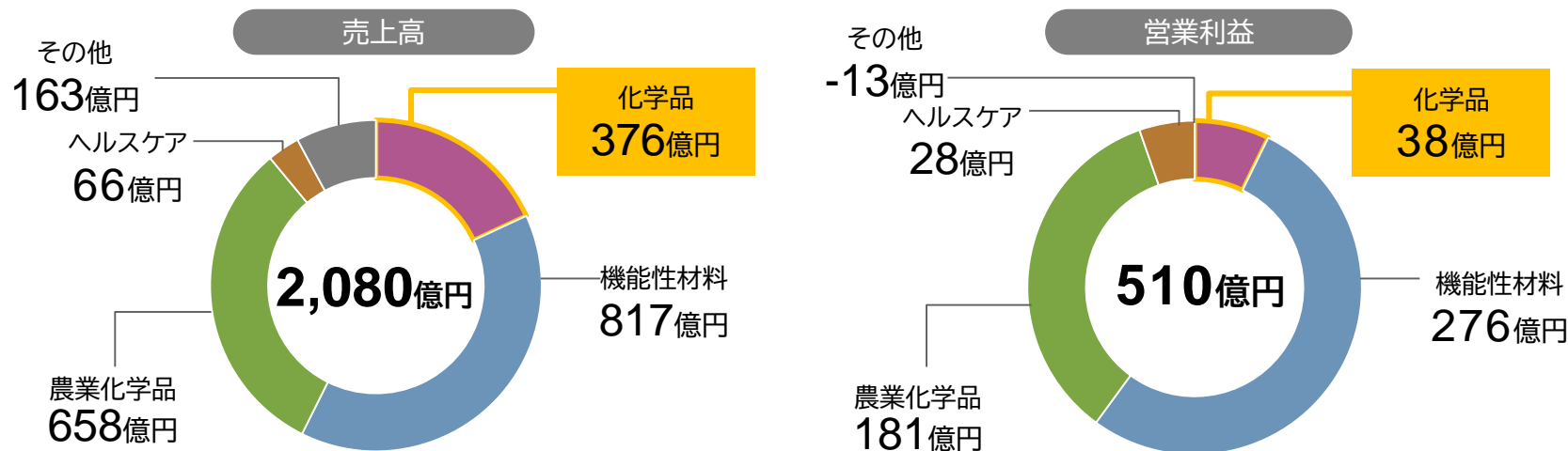
		2022年度 予想 (2022年11月発表)					2022年度 予想 (2023年2月発表)					前回業績予想比		
		上期実績	3Q	4Q	下期	年間	上期実績	3Q実績	4Q	下期	年間	3Q	4Q	下期・年間
化学品	売上高	198	110	116	226	424	198	101	98	199	397	-9	-18	-27
	営業利益	11	9	5	14	25	11	4	2	6	17	-5	-3	-8
機能性材料	売上高	420	227	245	472	892	420	206	209	415	835	-21	-36	-57
	営業利益	139	81	83	164	303	139	69	54	123	262	-12	-29	-41
農業化学品	売上高	357	113	322	435	792	357	131	326	457	814	+18	+4	+22
	営業利益	121	16	82	98	219	121	31	83	114	235	+15	+1	+16
ヘルスケア	売上高	32	17	17	34	66	32	16	18	34	66	-1	+1	0
	営業利益	15	7	6	13	28	15	6	8	14	29	-1	+2	+1
卸売・その他・調整額	売上高	88	30	50	80	168	88	43	52	95	183	+13	+2	+15
	営業利益	-4	-14	-2	-16	-20	-4	-4	-1	-5	-9	+10	+1	+11
合計	売上高	1,095	497	750	1,247	2,342	1,095	497	703	1,200	2,295	0	-47	-47
	営業利益	282	99	174	273	555	282	106	146	252	534	+7	-28	-21

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

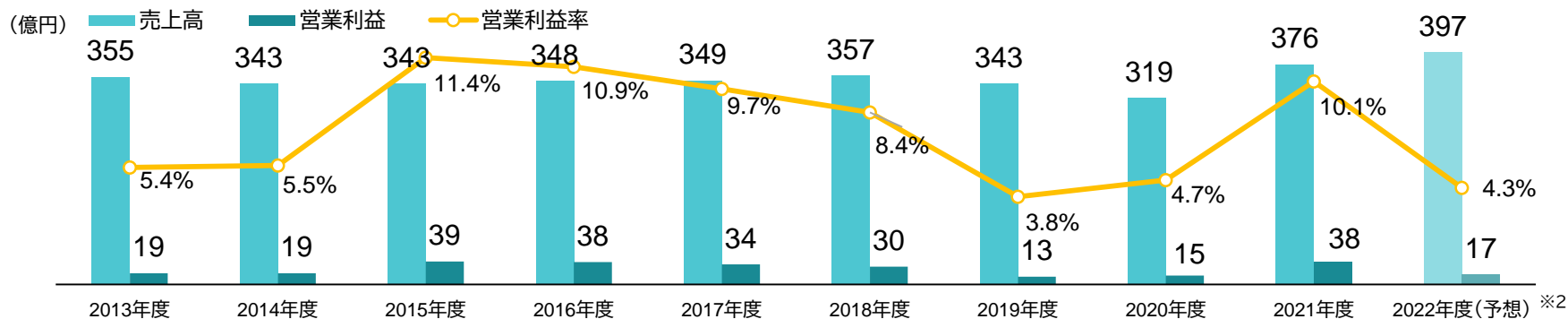
※ 卸売：日星産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・日本肥糧ほか、調整額：企画本部ほか(内訳はp65,p66参照)

※ 企画本部の2022年度予想値(2022年11月発表)は2022年11月発表 2022年度2Q決算説明会資料p69を参照
2022年度予想値(2023年2月発表)は本資料p55に記載

2021年度セグメント別業績※1



化学品セグメント業績推移



※1 2022年4月に組織改定を実施。2013～2020年度実績は旧セグメント区分。2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p68,p69参照)

※2 予想は2023年2月発表

- ファインケミカルは、下期予想で5%減収、前回予想比でも下ぶれ。年間予想では8%増収
- 基礎化学品は、下期予想で2%減収、前回予想比でも下ぶれ。年間予想では4%増収

主要製品	2022年度 予想(2022年11月発表)			2022年度 予想(2023年2月発表)				
	前年同期比			前年同期比				
	上期実績	下期	年間	3Q実績	1-3Q実績	4Q	下期	年間
テピック	+25%	+22%	+23%	-33%	+2%	-24%	-29%	-4%
環境化学品	+17%	+36%	+26%	+4%	+13%	+29%	+17%	+17%
ファインオキシコール	+36%	-4%	+13%	+8%	+25%	-28%	-10%	+10%
ファインケミカル合計※1	+23%	+24%	+24%	-8%	+12%	0%	-5%	+8%
メラミン※2	+28%	-96%	-51%	-85%	-27%	-100%	-92%	-49%
尿素・アドブルー®	+56%	+75%	+67%	+70%	+62%	+65%	+68%	+63%
高純度硫酸	+1%	+8%	+4%	-10%	-3%	-10%	-10%	-5%
硝酸製品	-14%	+24%	+6%	+15%	-4%	+13%	+14%	+1%
基礎化学品合計※3・4	+11% (+8%)	+3% (+28%)	+7% (+19%)	0% (+22%)	+6% (+13%)	-2% (+21%)	-2% (+21%)	+4% (+15%)
化学品セグメント合計※3	+16% (+14%)	+10% (+27%)	+13% (+21%)	-4% (+10%)	+8% (+13%)	-2% (+12%)	-3% (+11%)	+5% (+13%)

※1 テピック、環境化学品、ファインオキシコールの2022年1-3Q実績ファインケミカル売上高に占める割合: 85%

※2 メラミンは2022年6月に生産停止済み(p24参照、メラミン生産停止による構造改革)

※3 ()内伸び率は、2021年度実績・2022年度予想ともにメラミンを除く

※4 メラミン、尿素・アドブルー®、高純度硫酸、硝酸製品の2022年1-3Q実績基礎化学品売上高に占める割合: 54%

【3Q実績】売上高-4億円(うちメラミン-13億円)、営業利益-9億円
 【下期予想】売上高-6億円(うちメラミン-26億円)、営業利益-20億円

(億円)

	2021年度 実績					2022年度 予想 (2023年2月発表)					前年同期比				
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期 実績	3Q 実績	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高	171	105	100	205	376	198	101	98	199	397	+27	-4	-2	-6	+21
ファインケミカル	62	37	32	69	131	77	33	32	65	142	+15	-4	0	-4	+11
基礎化学品	109	68	68	136	245	121	68	66	134	255	+12	0	-2	-2	+10
営業利益	12	13	13	26	38	11	4	2	6	17	-1	-9	-11	-20	-21

※ 2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p68,p69参照)

【3Q】減収・減益 【下期】減収・減益

ファインケミカル

- テピック一般 【3Q】【下期】とも需要減で減収
- テピック電材 【3Q】【下期】とも減収
- 環境化学品 【3Q】【下期】とも価格上昇で増収
- ファインオキシコール 【3Q】価格上昇で増収
【下期】減収
- 【3Q】原燃料高(減益要因)
【下期】原燃料高(減益要因)

【3Q】売上高横ばい・減益 【下期】減収・減益

基礎化学品

- メラミン 【3Q】【下期】とも終売で減収(p24参照)
- 尿素・アドブルー® 【3Q】【下期】とも価格上昇で増収
- 高純度硫酸 【3Q】【下期】とも半導体市場低調で減収
- 硝酸製品 【3Q】【下期】とも価格上昇で増収
- 【3Q】原燃料高(減益要因)
【下期】原燃料高(減益要因)

【3Q実績】売上高-9億円(うちメラミン+1億円)、営業利益-5億円
 【下期予想】売上高-27億円(うちメラミン+1億円)、営業利益-8億円

(億円)

	2022年度 予想 (2022年11月発表)			2022年度 予想 (2023年2月発表)			前回業績予想比		
	3Q	4Q	下期	3Q 実績	4Q	下期	3Q	4Q	下期
売上高	110	116	226	101	98	199	-9	-18	-27
ファインケミカル	40	46	86	33	32	65	-7	-14	-21
基礎化学品	70	70	140	68	66	134	-2	-4	-6
営業利益	9	5	14	4	2	6	-5	-3	-8

【3Q】売上高・営業利益とも下ぶれ
 【下期】売上高・営業利益とも下ぶれ

ファイン
ケミカル

- テピック一般 【3Q】【下期】とも需要減で売上高下ぶれ
- テピック電材 【3Q】【下期】とも売上高下ぶれ
- 環境化学品 【3Q】【下期】とも売上高下ぶれ
- ファインオキシコール 【3Q】価格上昇で売上高上ぶれ
【下期】売上高下ぶれ

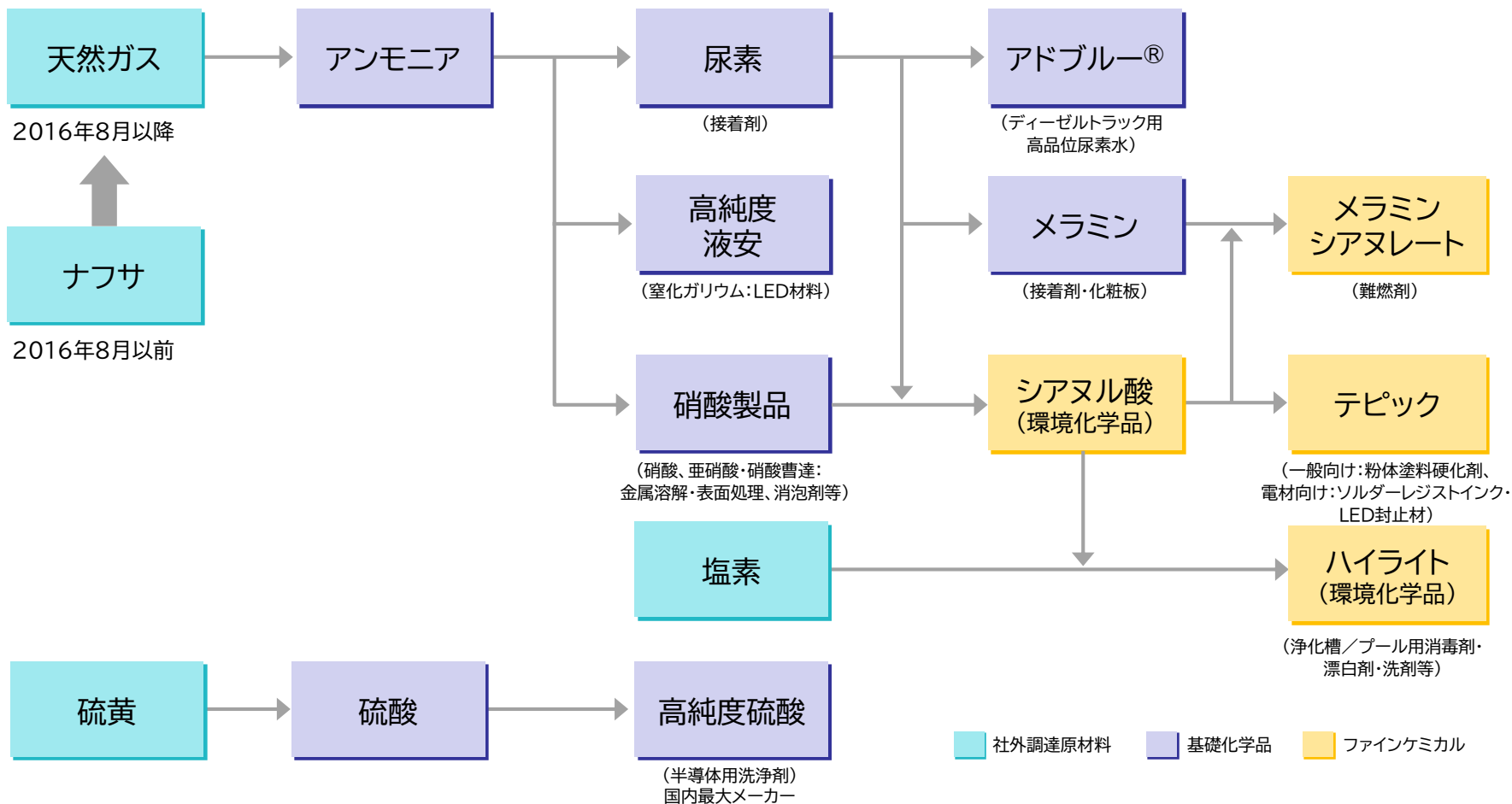
【3Q】【下期】とも原燃料高(減益要因)

【3Q】売上高・営業利益とも下ぶれ
 【下期】売上高・営業利益とも下ぶれ

基礎
化学品

- メラミン 【3Q】【下期】とも終売後ろ倒しで売上高上ぶれ
- 尿素・アドブルー® 【3Q】【下期】とも売上高下ぶれ
- 高純度硫酸 【3Q】【下期】とも半導体市場低調で売上高下ぶれ
- 硝酸製品 【3Q】【下期】とも売上高下ぶれ

- 主要製品は、アンモニア系と硫酸系
- 2021年度アンモニア国内生産能力シェアはわずか11%
- 規模を追わず、高純度硫酸やテピックなどの高付加価値製品へ注力



- 2021年8月発表通り、2022年6月にメラミン生産を停止、12月で販売終了
- 今後も高付加価値・高シェア製品へ経営資源を集中

1. 化学品事業の売上高・営業利益(2018-2021年度累計)

(億円)

	売上高(構成比)	営業利益(構成比)	主要製品
アンモニア系	925(66%)	19(20%)	アンモニア、尿素・アドブルー®、高純度液安、メラミン、硝酸、シアヌル酸、ハイライト、テピック、メラミンシアヌレート
硫酸系	470(34%)	77(80%)	硫酸、精製硫酸、高純度硫酸
その他			ファインオキシコール等
セグメント合計	1,395(100%)	96(100%)	

※アンモニア系製品中、メラミンが売上高最大も赤字。メラミン以外のアンモニア系製品合計利益は黒字

2. メラミンの現状と展望

下記要因から、中長期的に安定的な利益を確保することは困難でリスクの大きい事業、新規投資による利益拡大も望めない

- 世界の生産能力は、需要の2倍(当社推定)
- 国内の生産能力(当社含め2社)は、需要の3倍(当社推定)
- 価格は、足元回復基調だが、安値中国品(生産能力は世界の約7割を占める)の動向に大きく左右され、不安定

3. 対応策

- ① 2022年6月 メラミン生産停止、在庫消滅時点で販売終了
- ② 高付加価値、高シェア製品への資源集中等による拡販
- ③ メラミン操業員は、富山工場内で配置転換
- ④ メラミン誘導品は、原料メラミンを購入品に切り替えて販売継続

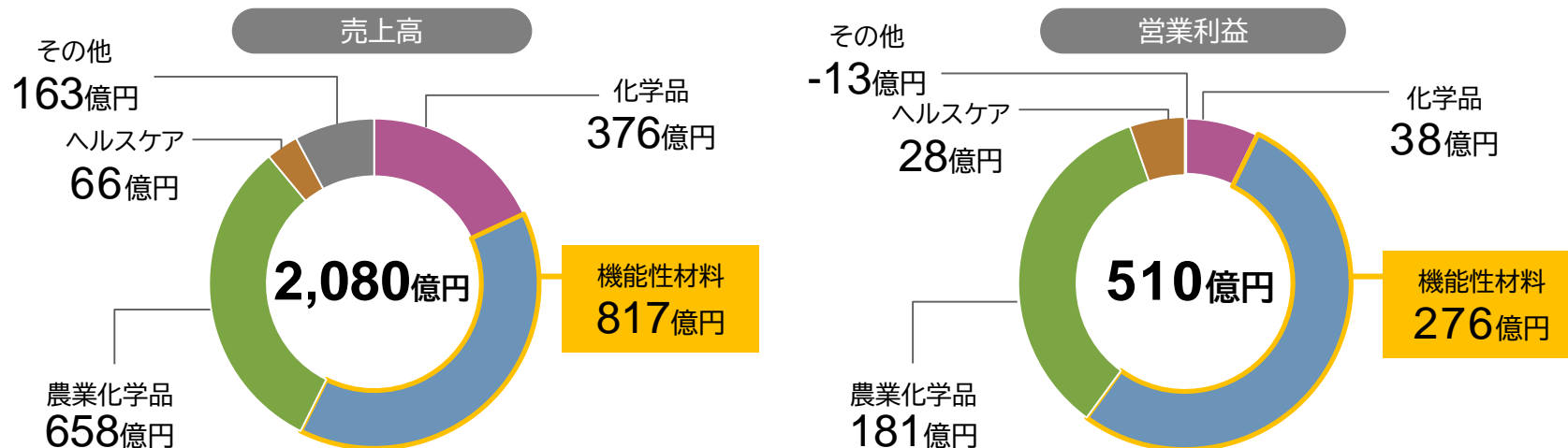
4. 構造改革費用

メラミン停止関連諸費用(特別損失17.9億円)は投資有価証券売却益でカバー済み(2021年2Q計上)

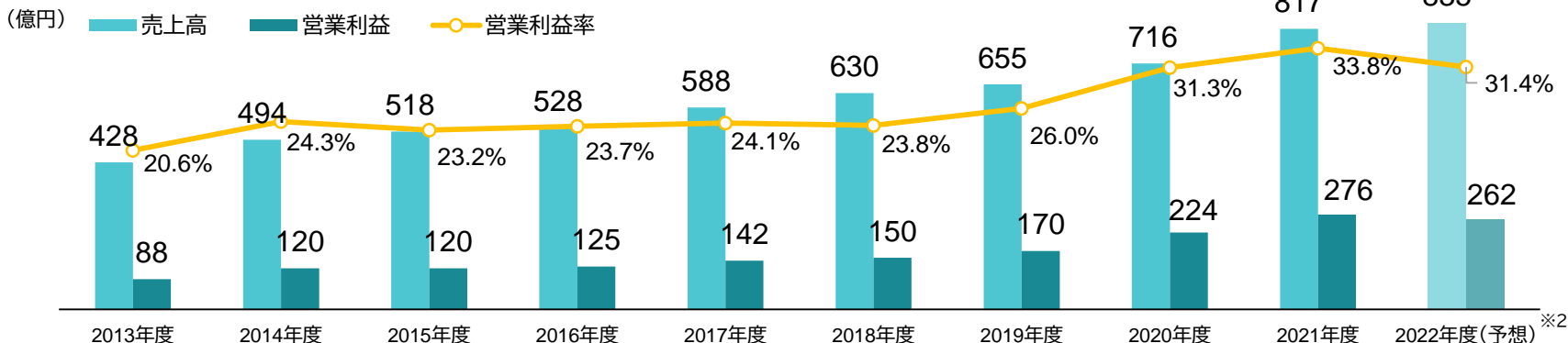
5. ESG

メラミン停止によるCO2削減量試算: -26千トン
→2018年度実績の約7%に相当(p46参照)

2021年度セグメント別業績※1

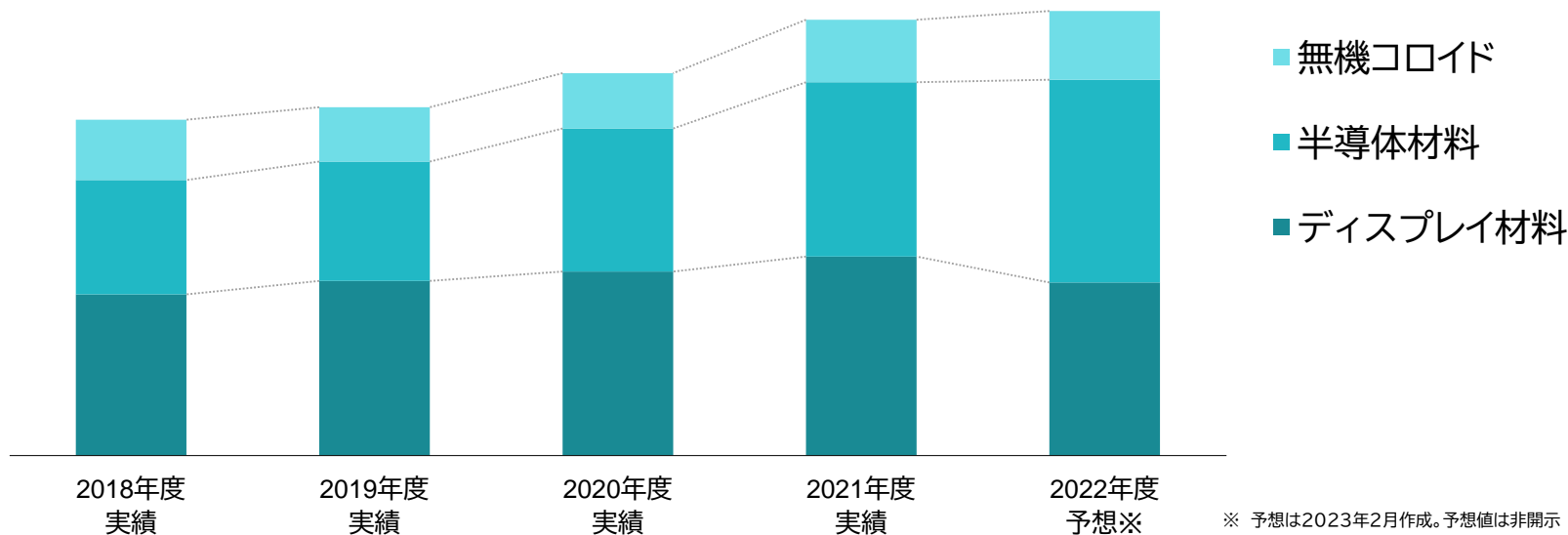


機能性材料セグメント業績推移



※1 2022年4月に組織改定を実施。2013～2020年度実績は旧セグメント区分。2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p68,p69参照)

※2 予想は2023年2月発表



主要製品

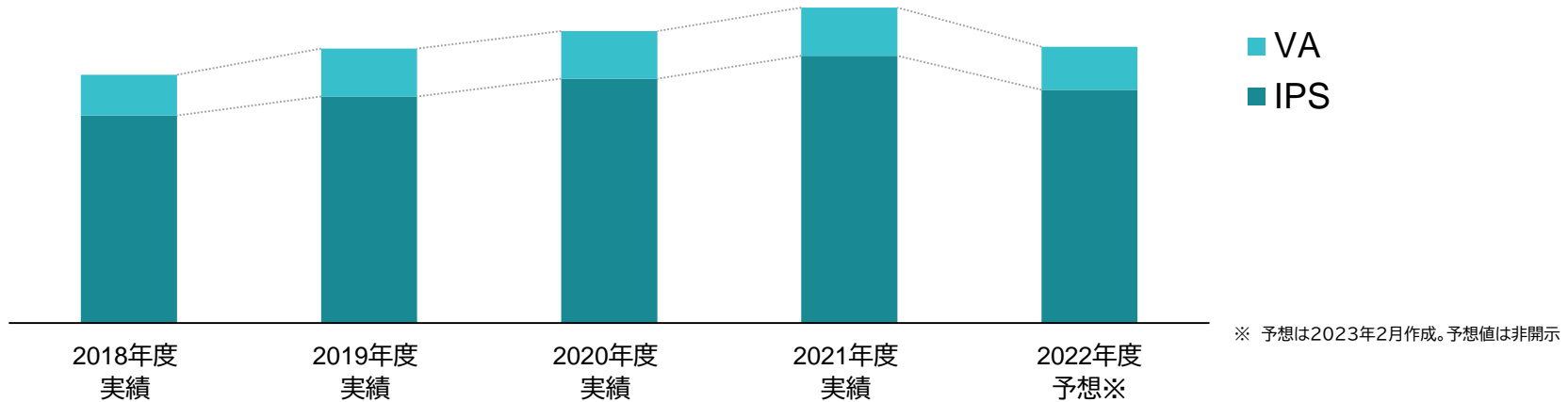
ディスプレイ材料		半導体材料		無機コロイド	
サンエバー	液晶配向材用ポリイミド	ARC®	半導体用反射防止コーティング材	スノーテックス	研磨材(シリコンウェハー、化合物半導体、半導体CMP等) 特殊鋼板
		多層材料	半導体用多層プロセス材料 (OptiStack®)	オルガノゾル・モノマーゾル	電子機器用フィルム表面処理、樹脂添加剤
		その他新材料	EUV材料、三次元実装材、CMOSイメージセンサー材料等	オイル&ガス材料	シェールオイル・ガス採掘効率向上材

- ディ스플레이材料は、下期予想で14%減収、前回予想比でも下ぶれ。年間予想では13%減収
- 半導体材料は、下期予想で7%増収、前回予想比では下ぶれ。年間予想では16%増収
- 無機コロイドは、下期予想で11%増収、前回予想比では下ぶれ。年間予想では10%増収

主要製品	2022年度 予想(2022年11月発表)			2022年度 予想(2023年2月発表)					
	前年同期比			前年同期比					
	上期実績	下期	年間	3Q実績	1-3Q実績	4Q	下期	年間	
サンエバー	-12%	-2%	-7%	-6%	-10%	-19%	-13%	-12%	
ディスプレイ材料合計	-13%	-2%	-7%	-7%	-11%	-20%	-14%	-13%	
ARC [®]	KrF (ARC [®])	+8%	+11%	+10%	-16%	0%	-6%	-11%	-2%
	ArF (ARC [®])	+26%	+24%	+25%	-2%	+16%	+17%	+7%	+16%
ARC [®] 小計	+23%	+21%	+22%	-5%	+13%	+10%	+3%	+12%	
その他半導体材料合計※	+35%	+37%	+36%	+10%	+26%	+26%	+18%	+26%	
半導体材料合計	+26%	+26%	+26%	0%	+17%	+15%	+7%	+16%	
スノーテックス	+6%	+27%	+16%	+17%	+9%	+18%	+17%	+11%	
オルガノゾル・モノマーゾル	+10%	-9%	0%	-13%	+2%	-1%	-7%	+1%	
オイル&ガス材料	+94%	+18%	+52%	+182%	+122%	+19%	+83%	+88%	
無機コロイド合計	+9%	+17%	+13%	+9%	+9%	+13%	+11%	+10%	
機能性材料セグメント合計	+6%	+12%	+9%	-1%	+3%	-1%	-1%	+2%	

※ 多層材料 (OptiStack[®])、EUV材料、CMOSイメージセンサー材料、三次元実装材等

ディスプレイ市場減速のため、2022年度年間予想では12%減収、前回予想比でも下ぶれ
 他モード(ラビングIPSなど)から光IPSへの転換は順調に進む



主要用途

- VA (Vertical Alignment) テレビ
- IPS (In-Plane Switching) スマートフォン、タブレット、PC、モニター、車載

モード別売上高成長率

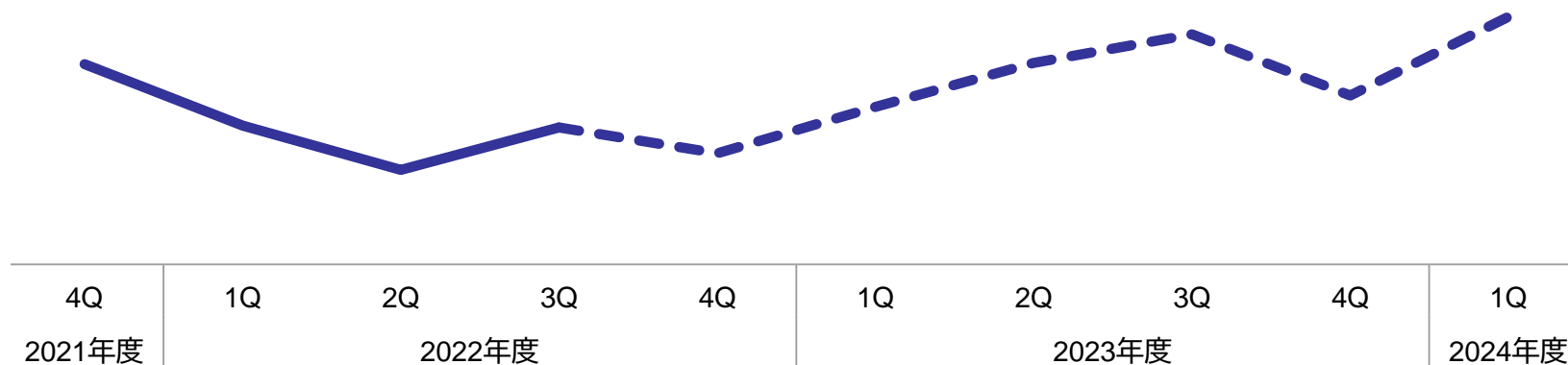
	2022年度 年間予想 (2022年11月発表)	2022年度 年間予想 (2023年2月発表)
	前年同期比	前年同期比
VA	減収(-10 ~ -19%)	減収(-10 ~ -19%)
IPS	減収(-0 ~ -9%)	減収(-10 ~ -19%)
サンエバー合計(TN※含む)	-7%	-12%

※ TN(Twisted Nematic) 主要用途はPC、モニター

■ ディ스플레이市場の見通しイメージ

2023年度上期から回復を見込む

他モード(ラビングIPSなど)から光IPSへの転換は従来通り順調に進む見通し

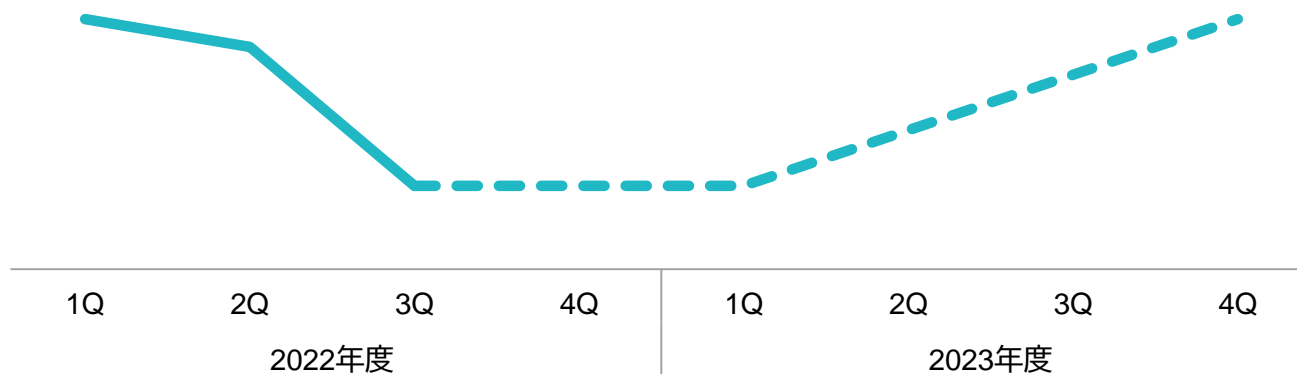


出典: Omdia(2023年1月)、面積ベース

■ 半導体市場の見通しイメージ

2023年度上期から回復を見込む

中長期的には成長市場であることに変化はなし



出典: 各種調査に基づく当社独自予測

【3Q実績】売上高-3億円、営業利益-7億円、固定費増加合計5億円

【下期予想】売上高-6億円、営業利益-22億円、固定費増加合計16億円(共通費用増加1億円含む)

(億円)

	2021年度 実績					2022年度 予想 (2023年2月発表)					前年同期比				
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期 実績	3Q 実績	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高	396	209	212	421	817	420	206	209	415	835	+24	-3	-3	-6	+18
営業利益	131	76	69	145	276	139	69	54	123	262	+8	-7	-15	-22	-14

※ 2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p68,p69参照)

【3Q】減収・減益 【下期】減収・減益

ディスプレイ

光IPS 【3Q】売上高横ばい(4Qから一部出荷前倒し)
【下期】減収

ラビングIPS 【3Q】【下期】とも減収

VA 【3Q】【下期】とも減収

【3Q】ディスプレイ市場減速、固定費増加1億円
【下期】ディスプレイ市場減速、固定費増加3億円

半導体

【3Q】売上高横ばい・減益 【下期】増収・増益

ARC® 【3Q】減収 【下期】増収

その他 【3Q】【下期】とも増収(多層材料・EUV材料増収)
特にEUV下層膜は順調に伸長、シェア拡大継続

【3Q】固定費増加3億円
【下期】固定費増加9億円

無機
コロイド

【3Q】増収・増益 【下期】増収・減益

スノーテックス 【3Q】【下期】とも増収(一般用途・研磨材増収)

オルガノ・モノマーゾル 【3Q】【下期】ともに減収

オイル&ガス材料 【3Q】【下期】ともに増収

【3Q】固定費増加1億円
【下期】固定費増加3億円

【3Q実績】売上高-21億円、営業利益-12億円、固定費下ぶれ合計2億円(増益要因)

【下期予想】売上高-57億円、営業利益-41億円、固定費上ぶれ合計1億円(減益要因)

(億円)

	2022年度 予想 (2022年11月発表)			2022年度 予想 (2023年2月発表)			前回業績予想比		
	3Q	4Q	下期	3Q 実績	4Q	下期	3Q	4Q	下期
売上高	227	245	472	206	209	415	-21	-36	-57
営業利益	81	83	164	69	54	123	-12	-29	-41

【3Q】売上高下ぶれ・営業利益予想通り
【下期】売上高・営業利益とも下ぶれ

ディスプレイ

光IPS	【3Q】売上高予想通り (4Qから一部出荷前倒し) 【下期】売上高下ぶれ
ラビングIPS	【3Q】【下期】とも売上高下ぶれ
VA	【3Q】【下期】とも売上高上ぶれ

【3Q】固定費下ぶれ1億円(増益要因)
【下期】固定費下ぶれ1億円(増益要因)

半導体

【3Q】売上高・営業利益とも下ぶれ
【下期】売上高・営業利益とも下ぶれ

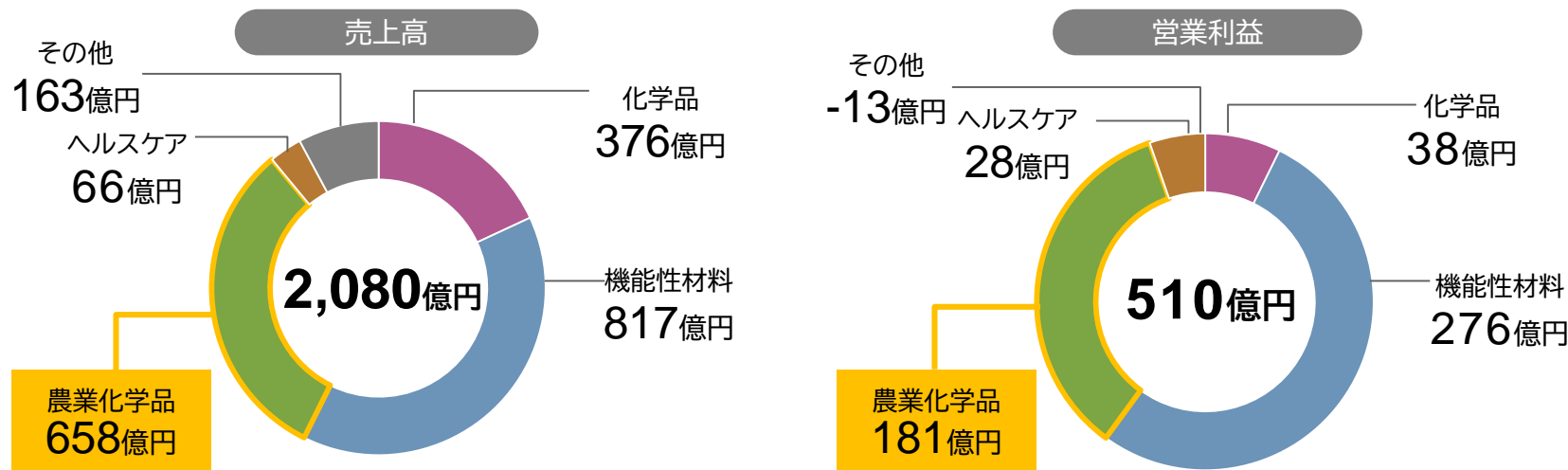
ARC®	【3Q】【下期】とも売上高下ぶれ
その他	【3Q】売上高下ぶれ(多層材料下ぶれ、EUV材料予想通り) 【下期】売上高下ぶれ(多層材料・EUV材料下ぶれ)
	【3Q】固定費下ぶれ1億円(増益要因) 【下期】固定費上ぶれ2億円(減益要因)

無機
コロイド

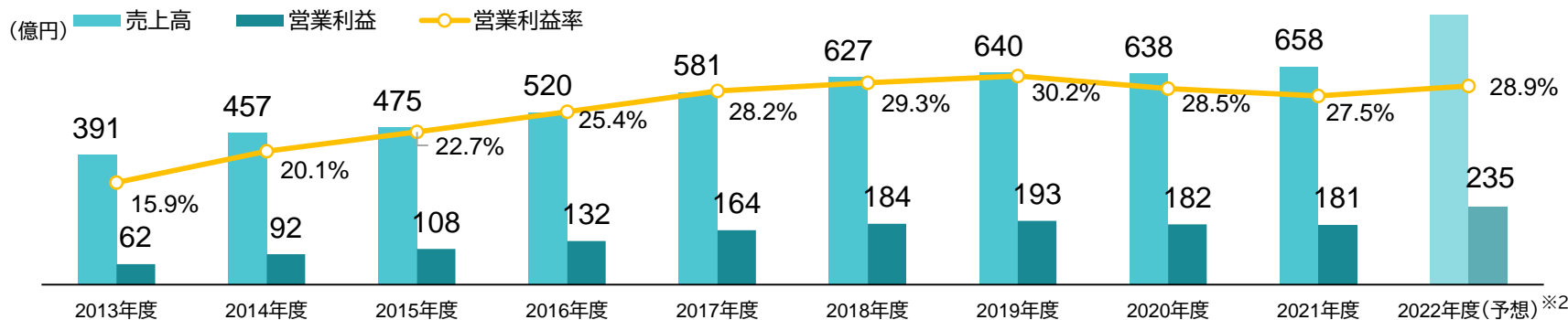
【3Q】売上高・営業利益とも下ぶれ
【下期】売上高・営業利益とも下ぶれ

スノーテックス	【3Q】売上高下ぶれ(一般用途下ぶれ、研磨材上ぶれ) 【下期】売上高下ぶれ(一般用途下ぶれ、研磨材予想通り)
オルガノ・モノマーゾル	【3Q】売上高下ぶれ(4Qへ一部出荷後ろ倒し) 【下期】売上高上ぶれ
オイル&ガス材料	【3Q】【下期】とも売上高上ぶれ
	【3Q】固定費予想通り 【下期】固定費予想通り

2021年度セグメント別業績※1



農業化学品セグメント業績推移



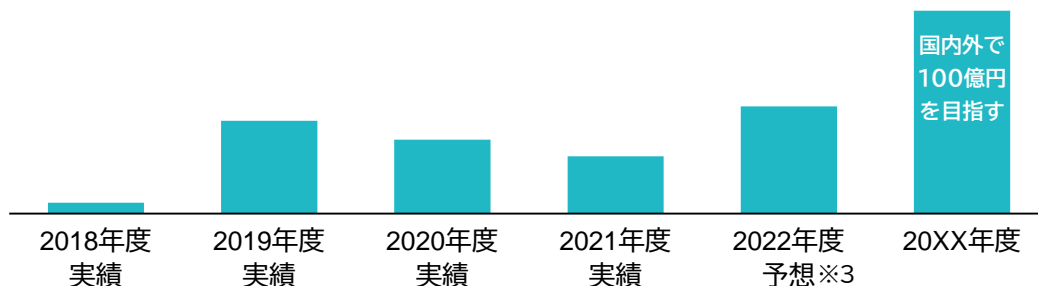
※1 2022年4月に組織改定を実施。2013～2020年度実績は旧セグメント区分。2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p68,p69参照)

※2 予想は2023年2月発表

- 下期予想で12%増収、前回予想比でも上ぶれ。年間予想では24%増収

主要製品名 (2021年度 売上高順)	種類	2022年度 予想(2022年11月発表)			2022年度 予想(2023年2月発表)				
		前年同期比			前年同期比				
		上期実績	下期	年間	3Q実績	1-3Q実績	4Q	下期	年間
ラウンドアップ※1	除草剤	+16%	+3%	+9%	-28%	+7%	+18%	+9%	+12%
フルララネル	動物薬	+42%	+32%	+38%	+62%	+47%	+5%	+29%	+37%
アルテア	除草剤	+31%	+10%	+14%	+18%	+26%	+8%	+9%	+13%
タルガ	除草剤	+30%	-1%	+13%	+7%	+26%	+8%	+8%	+18%
ダイセン	殺菌剤	+38%	+3%	+15%	+24%	+33%	+24%	+24%	+29%
パーミット	除草剤	+190%	-45%	+4%	-22%	+45%	-36%	-28%	+18%
ライメイ	殺菌剤	+144%	+71%	+92%	+25%	+110%	+87%	+78%	+97%
グレーシア	殺虫剤	+199%	+47%	+81%	+105%	+145%	+25%	+55%	+87%
クインテック	殺菌剤	+121%	-97%	-26%	-97%	-9%	-96%	-97%	-26%
セグメント合計※2	-	+43%	+6%	+20%	+10%	+32%	+13%	+12%	+24%

グレーシア売上高



※3 2023年2月発表

参考

- 国内農薬販売 第1位
(2020年10月~2021年9月)

[ラウンドアップの現状説明会資料](#)
(2020年1月22日発表)

※1 ラウンドアップALは、2022年度1-3Q実績のラウンドアップ売上高全体の28%を占める
 ※2 セグメント合計の前年同期比は値引きを含む

【3Q実績】売上高+12億円、営業利益+1億円、固定費増加2億円

【下期予想】売上高+49億円、営業利益+2億円、固定費増加6億円

(億円)

	2021年度 実績					2022年度 予想 (2023年2月発表)					前年同期比				
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期 実績	3Q 実績	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高	250	119	289	408	658	357	131	326	457	814	+107	+12	+37	+49	+156
営業利益	69	30	82	112	181	121	31	83	114	235	+52	+1	+1	+2	+54

※ 2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p68,p69参照)

主要製品	ラウンドアップ(除草剤)	【3Q】減収(ML:4Qへ出荷後ろ倒し、AL:減収) 【下期】増収(ML:数量・価格上昇、AL:増収)
	フルラネル(動物薬)	【3Q】増収(原薬:22年度4Qからの出荷前倒し、ロイヤリティ収入:堅調) 【下期】増収(原薬出荷・ロイヤリティ収入堅調)
	アルテア(除草剤)	【3Q】増収(国内値上げ前の駆け込み需要) 【下期】増収(国内価格上昇により増収)
	タルガ(除草剤)	【3Q】【下期】ともに増収(輸出を中心に増収)
	ダイセン(殺菌剤)	【3Q】増収(輸出を中心に増収) 【下期】増収(国内:12月から価格上昇、輸出:21年度下期から22年度へ出荷後ろ倒し)
	パーミット(除草剤)	【3Q】【下期】ともに減収(21年度は販売が3Qに偏重)
	ライメイ(殺菌剤)	【3Q】【下期】ともに増収(欧州での混合剤用途向け拡販により需要増)
	グレーシア(殺虫剤)	【3Q】【下期】ともに増収(国内:流通在庫解消により増収、輸出:新規国登録での拡販により増収)
	クインタック(殺菌剤)	【3Q】【下期】ともに減収(22年度は販売が上期に偏重)

【3Q実績】売上高+18億円、営業利益+15億円、固定費下ぶれ3億円

【下期予想】売上高+22億円、営業利益+16億円、固定費下ぶれ4億円

(億円)

	2022年度 予想 (2022年11月発表)			2022年度 予想 (2023年2月発表)			前回業績予想比		
	3Q	4Q	下期	3Q 実績	4Q	下期	3Q	4Q	下期
売上高	113	322	435	131	326	457	+18	+4	+22
営業利益	16	82	98	31	83	114	+15	+1	+16

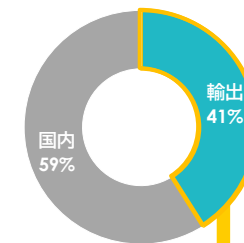
主要製品	説明
ラウンドアップ(除草剤)	【3Q】売上高予想通り(ML:上ぶれ、AL:下ぶれ) 【下期】売上高上ぶれ(ML:価格上昇、AL:予想通り)
フルラナネル(動物薬)	【3Q】売上高上ぶれ(原薬:4Qからの出荷前倒しで上ぶれ、ロイヤリティ収入:上ぶれ) 【下期】売上高下ぶれ(原薬:予想通り、ロイヤリティ収入:わずかに下ぶれ)
アルテア(除草剤)	【3Q】売上高下ぶれ(国内:4Qへ出荷後ろ倒し) 【下期】売上高予想通り
タルガ(除草剤)	【3Q】【下期】ともに売上高上ぶれ(輸出を中心に上ぶれ)
ダイセン(殺菌剤)	【3Q】【下期】ともに売上高上ぶれ(国内:12月から価格上昇)
パーミット(除草剤)	【3Q】【下期】ともに売上高上ぶれ(需要増)
ライメイ(殺菌剤)	【3Q】売上高下ぶれ(4Qへ出荷後ろ倒し) 【下期】売上高上ぶれ(欧州での混合剤用途向け拡販により需要増)
グレーシア(殺虫剤)	【3Q】売上高上ぶれ(輸出:4Qからの前倒し) 【下期】売上高上ぶれ(国内:流通在庫解消により拡販)
クインテック(殺菌剤)	【3Q】【下期】ともに売上高予想通り

上市年度	製品名	分類	開発経緯	備考
2002	ラウンドアップ	除草剤	買収	米国モンサント社より国内事業を買収、継続成長中
2008	ライメイ	殺菌剤	自社開発	
2008	スターマイト	殺虫剤	自社開発	
2009	バルサー(チフルザミド)	殺菌剤	買収	米国ダウ社より世界事業を買収
2009	プレバソン	殺虫剤	導入	米国デュポン社より導入
2010	ラウンドアップマックスロードAL	除草剤	自社開発	一般家庭向け希釈済みシャワータイプ除草剤。2016年AII、2018年AIII上市、急成長
2011	アルテア	除草剤	自社開発	2011年韓国で上市、2012年日本で上市
2013	フルララネル	動物用医薬品原薬	自社開発	米国MSD社※1向けにブラベクト原薬として出荷開始
2014	ブラベクト※2	ペット動物用医薬品	-	2014年4月欧州、6月米国、15年7月日本で上市
2015	トレファノサイド	除草剤	導入	米国ゴーワン社がダウ社より買収、当社は国内販売独占権を継承
2017	ネクスター	殺菌剤	導入	スイスシンジェンタ社より導入
2017	トランスフォーム™/エクシード™/ピレスコ™	殺虫剤	導入	米国ダウ社より導入
2017	エグゾルト※2	家畜動物用医薬品	-	9月米国MSD社による、欧州でのニワトリ用製品上市
2018	グレーシア	殺虫剤	自社開発	広範囲の重要害虫に有効、ミツバチへの影響が少ない。2018年韓国、2019年日本、2021年インド・インドネシアで上市(ピーク時売上高目標100億円)
2019	クインテック(キノキシフェン)	殺菌剤	買収	2019年11月米国コルテバ社より世界事業を買収。果樹野菜のうどんこ病(カビの1種)の発病予防に非常に効果的
2020	ダイセン(マンゼブ)	殺菌剤	買収	2020年12月米国コルテバ社より日本・韓国事業を買収。果樹野菜用の保護除菌剤、耐雨性に優れる
2024	未定(ジメスルファゼット)(NC-653)	除草剤	自社開発	イネへの優れた安全性があり、抵抗性ホタルイカや難防除雑草クログワイに高い効果を持つ(ピーク時売上目標35億円)
2025	未定(NC-520)	殺虫剤	共同開発	他社との共同開発の新規水稲用殺虫剤。ウンカ類への効果が高い(混合剤も含めピーク時売上目標2.5億円)
2027	未定(イプトリアゾピリド)(NC-656)	除草剤	自社開発	抵抗性イネ科雑草(ヒエ・アゼガヤ)に優れた効果を持つ。当社初の水稲用茎葉除草剤(ピーク時売上高目標100億円)

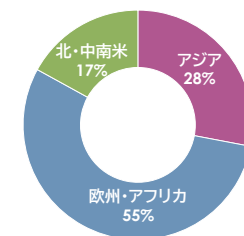
既存製品

新製品群
パイプライン

農業化学品セグメントの輸出比率(2021年度実績)※3



- 地域別分布



新製品群のピーク時売上高目標合計

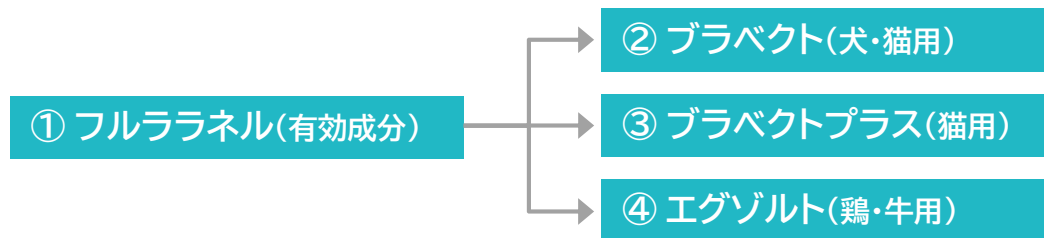
310億円

※1 MSD社:米国メルク社のアニマルヘルス事業部門のMSD Animal Health 社の略称

※2 ブラベクト・エグゾルト:MSD社の販売製品名

※3 フルララネルを含める

- 当社が発明した化合物「フルララネル」を有効成分とするブラベクトシリーズ・エグゾルトは現在100か国以上で販売中
- ブラベクト最大の特徴は12週間にわたる効果持続性(既存製品は1か月程度)



① フルララネル(Fluralaner)

- ブラベクト・エグゾルトの有効成分。当社がMSD社※1に供給
- これまでのペット用外部寄生虫薬とは異なる新たな作用機序を有している
- 化合物特許
 - 2025年3月に終了するが、多数の国で延長制度あり
 - UK、ドイツ、フランス等一部欧州諸国では、2029年2月まで延長済み、米国は延長申請中

② ブラベクト(BRAVECTO)

- MSD社が開発したペット用外部寄生虫薬。犬・猫のノミ、マダニの主要種に対し即効性に優れる
- 通常1か月毎に投薬する既存製品より殺虫効果の持続性が長く、12週間※2にわたって持続する
- 犬向けチュアブルタブレット(経口投与製剤)
 - 2014年4月欧州、以降米国、日本等で上市、2019年7月中国上市
 - 2020年7月1か月剤(子犬向け)米国上市
- 犬、猫向けスポットオン製品(経皮投与製剤)
 - (猫)2016年7月欧州、以降米国、日本等上市
 - (犬)2017年1月米国・欧州等上市、2021年1月日本上市

③ ブラベクトプラス (BRAVECTO Plus)

- 猫向け内外部寄生虫スポットオン合剤
 - 2018年7月欧州、以降米国等上市、2021年1月日本上市

④ エグゾルト(EXZOLT)

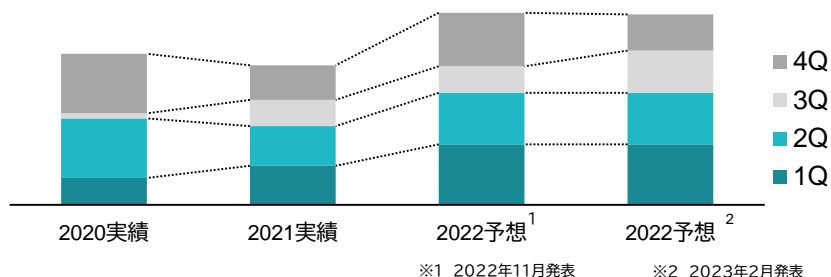
- 鶏向けワクモ駆除剤(飲水投与)
 - 2017年9月欧州、以降韓国、中東等上市、2021年7月日本上市
- 牛向け
 - 2022年3月ブラジル、5月メキシコ販売承認

※1 米国メルク社のアニマルヘルス事業部門のMSD Animal Health 社の略称 ※2 クリイロコイタマダニは8週間

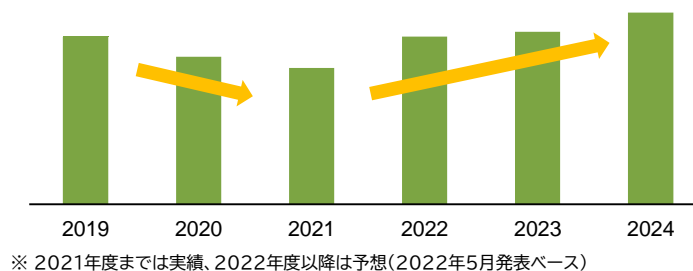
■ 当社のフルララネル売上高の構成

MSD社へのフルララネル販売 + MSD社からのランニングロイヤリティ(RR)

■ 2020～2022年度 四半期別売上高推移 (RR収入含む)



■ 2019～2024年度 売上高推移イメージ(RR収入含む) (2022年5月発表 2021年度決算説明資料から変更なし)



ロイヤリティ収入は、2020年度まで2・4Q計上であったが、会計方針の変更にともない、2021年度からは各四半期に計上されている(p67参照)

- ・フルララネルの在庫調整は2021年度で完了
- ・2022年度は、2021年度からの出荷後ろ倒しもあり、大幅増収を計画。5月発表時点の想定為替レートは115円/ドル
- ・2023年度以降の想定為替レートは110円/ドル
- ・中計2027年度は、国別の特許の延長・失効の予想(p37参照)を織り込み、ブラベクト新規開発剤上市に伴う販売増は織り込んでいない

■ ブラベクトの拡大に向けたMSD社の開発状況

フルララネルを有効成分とするペット向けの新たな内外寄生薬、家畜向け経皮投与剤等をMSD社が開発中

剤の買収・導入による製品ポートフォリオの拡充を進める

クインテック(キノキシフェン)

- クインテックはキノキシフェン(有効成分)を含む製品群中の主要製品
- 2019年11月 米国コルテバ社より事業を買収
- 2019年12月 販売開始
- 果樹や野菜用の殺菌剤として流通。主な市場は米国
- 果樹(特にブドウ)や野菜のうどんこ病(カビの1種)の発病予防に非常に効果的

ダイセン(マンゼブ)

- ダイセンはマンゼブ(有効成分)を含む製品群中の主要製品
- 2020年12月 米国コルテバ社より日本・韓国事業を買収
- 2021年1月 国内販売開始
- 果樹(特にりんご、かんきつ)・野菜用の保護殺菌剤として流通。耐雨性に優れる

- 監査後無形固定資産の償却期間は、資産の種類別に5年・16年(定額法)(加重平均15.6年)で確定(監査前は5年で仮計算)

ダイセン収益予想※1

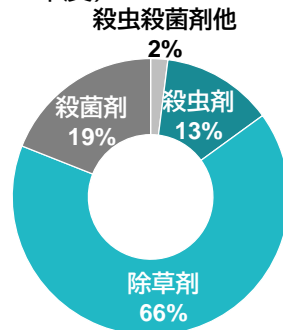
(億円)

年度	営業利益	償却前営業利益
2020	3	4
2021	7	11
2022-26 累計	36	53

※1 2021年5月発表 2020年度決算説明資料から変更なし

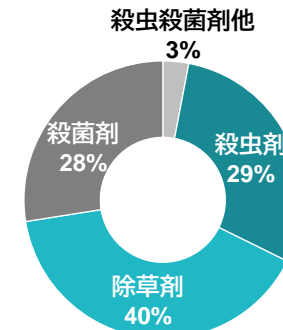
農薬製品ポートフォリオ

当社の農薬売上高構成比(2021年度)



【参考】

グローバル農薬市場売上高構成比(2021年1-12月)



- グローバルな安定供給と製造コスト削減を目指し、新たな原体生産拠点を設立
- 2022年度よりNBRを連結子会社に追加

Nissan Bharat Rasayan Private Limited(NBR)概要

本社所在地	ハリヤナ(Haryana)州グルガオン(Gurgaon)(ニューデリー近郊)
工場所在地	グジャラート(Gujarat)州サイカ(Saykha)に新設 (土地は同州産業開発公社(GIDC)より賃借)
営業開始日	2020年4月1日
事業内容	当社の農業(グレーシア、ライメイ、クインテック等)原体を製造し、当社へ販売
従業員数	150-200名(2022年想定)
工場稼働予定	2022年度4Q
株主	当社70%、Bharat Rasayan Ltd(略称BRL)30%
取締役会	当社指名5名、BRL指名2名、中立1名、合計8名

Bharat Rasayan Ltd(BRL)概要

設立	1989年(インド大手農業製造販売会社)
上場	インド国立証取(NSE)、ボンベイ証取(BSE)
主要株主	グプタ(Sat Narain Gupta)会長等創業家一族75.05%
損益状況	2021年度売上高13,012百万ルピー、税引後利益1,760百万ルピー
工場	グジャラート州(Gujarat)ダヘジ(Dahej)、ハリヤナ州(Haryana)ロータク(Rohtak)の2工場
当社との関係	一部当社品を受託生産、グループ会社のBharat Certis Agriscienceがタルガ、パルサー、パーミットをインド国内で販売

資金計画 (2022年5月発表時点)

(億円)

設備投資	60	資本金	23
運転資金他	28	当社貸付	65
所要資金合計	88	資金調達合計	88

当社連結営業利益への貢献予想(概算)

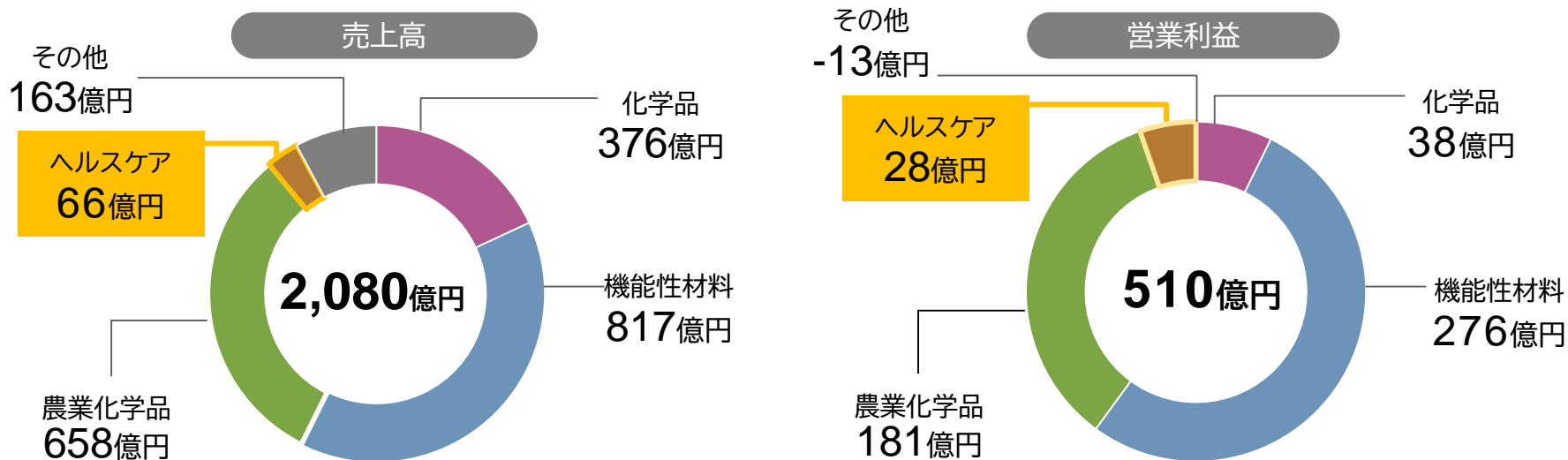
(億円)

年度	2021	2022	2023	2024	2025
営業利益	-	-2	10	24	29

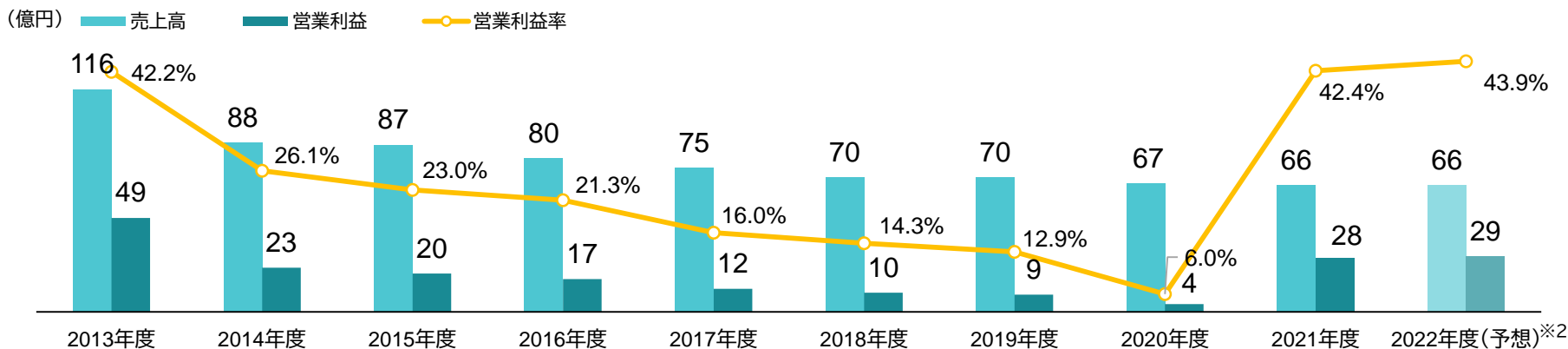
当社メリット

- 信頼できる経験豊富な現地パートナーの協力体制
- 有効成分の供給源の多様性・安全性確保と、原料不足リスクの低減
- 国内工場に比べて低い製造コスト
- すぐに利用できる工場用地(借地権の正式認可手続き完了済み)
- 既存の現地企業のM&Aに比べ、経営・財務リスクを大幅に軽減

2021年度セグメント別業績※1



ヘルスケアセグメント業績推移



※1 2022年4月に組織改定を実施。2013～2020年度実績は旧セグメント区分。2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p68,p69参照)

※2 予想は2023年2月発表

リバロ

2003年に興和から上市した高コレステロール血症治療薬。現在、世界30か国で販売中

(億円)

売上高の推移	2013年度※1	2020年度※2	2021年度	2022年度 予想 (2022年11月発表)	2022年度 予想 (2023年2月発表)
当社原薬 (国内外合計)	102	28	23	23	23
前年同期比成長率	-2%	-30%	-17%	0%	-1%
うち国内	-2%	+6%	+30%	-17%	-17%
うち海外	-1%	-35%	-28%	+8%	+5%

※1 2013年8月 国内物質特許満了 ※2 2020年8月 欧州で市場独占期間満了

ファインテック

課題解決型受託事業として、前臨床から商業生産まで新薬の原薬・中間体製造プロセス研究を受託
特に近年は高活性・高付加価値ジェネリック原薬を中心に新規案件獲得に注力

■ 高付加価値ジェネリック原薬の販売状況

販売開始年度	原薬	用途
2016	マキサカルシトール	尋常性乾癬／二次性副甲状腺機能亢進症治療
2017	エルデカルシトール	骨粗しょう症治療

■ ファインテック売上高の推移 (2013～2022年度)

(億円)

2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022 11月予想	2022 2月予想
18	23	24	25	26	29	38	42	42	43

【3Q実績】売上高-3.3億円、営業利益-2.6億円 【下期予想】売上高+1.4億円、営業利益-0.3億円

(億円)

	2021年度 実績					2022年度 予想 (2023年2月発表)					前年同期比				
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期 実績	3Q 実績	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高	33.4	19.2	13.3	32.5	65.9	32.5	15.9	18.0	33.9	66.4	-0.9	-3.3	+4.7	+1.4	+0.5
ヘルスケア	14.1	4.8	5.3	10.1	24.2	14.2	3.5	5.7	9.2	23.4	+0.1	-1.3	+0.4	-0.9	-0.8
ファインテック	19.3	14.4	8.0	22.4	41.7	18.3	12.4	12.3	24.7	43.0	-1.0	-2.0	+4.3	+2.3	+1.3
営業利益	13.8	9.2	5.1	14.3	28.1	14.6	6.6	7.4	14.0	28.6	+0.8	-2.6	+2.3	-0.3	+0.5
ヘルスケア	5.2	1.5	1.7	3.2	8.4	6.3	1.0	1.2	2.2	8.5	+1.1	-0.5	-0.5	-1.0	+0.1
ファインテック	8.6	7.7	3.4	11.1	19.7	8.3	5.6	6.2	11.8	20.1	-0.3	-2.1	+2.8	+0.7	+0.4

※ p17,p18,p64,p65,p66では億円未満を四捨五入して表示しており、これにより本ページの数字と合致しない場合がある
 ※ 2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p68,p69参照)

ヘルスケア

【3Q】減収・減益 【下期】減収・減益

リバロ

【3Q】減収(国内増収、輸出減収)
 【下期】減収(国内減収、輸出増収)

ファインテック

【3Q】減収・減益 【下期】増収・増益

【3Q】一部製品の今期販売は4Q偏重により減収
 【下期】増収

【3Q実績】売上高-0.9億円、営業利益予想通り

【下期予想】売上高+0.8億円、営業利益+0.6億円

(億円)

	2022年度 予想 (2022年11月発表)			2022年度 予想 (2023年2月発表)			前回業績予想比		
	3Q	4Q	下期	3Q 実績	4Q	下期	3Q	4Q	下期
売上高	16.8	16.3	33.1	15.9	18.0	33.9	-0.9	+1.7	+0.8
ヘルスケア	4.3	5.3	9.6	3.5	5.7	9.2	-0.8	+0.4	-0.4
ファインテック	12.5	11.0	23.5	12.4	12.3	24.7	-0.1	+1.3	+1.2
営業利益	6.6	6.8	13.4	6.6	7.4	14.0	0.0	+0.6	+0.6
ヘルスケア	1.7	1.2	2.9	1.0	1.2	2.2	-0.7	0.0	-0.7
ファインテック	4.9	5.6	10.5	5.6	6.2	11.8	+0.7	+0.6	+1.3

※ p17,p18,p64,p65,p66では億円未満を四捨五入して表示しており、これにより本ページの数字と合致しない場合がある

ヘルスケア

【3Q】売上高・営業利益とも下ぶれ
【下期】売上高・営業利益とも下ぶれ

リバロ

【3Q】売上高下ぶれ(国内上ぶれ、輸出下ぶれ)
【下期】売上高下ぶれ(国内予想通り、輸出下ぶれ)

ファイン
テック

【3Q】売上高予想通り・営業利益上ぶれ
【下期】売上高・営業利益とも上ぶれ

【3Q】売上高予想通り
【下期】ジェネリック品好調により売上高上ぶれ

Contents

01

2022年度第3四半期 連結決算報告

P3

02

2022年度通期 業績予想

P11

03

セグメント概況

P16

04

ESGトピックス

P45

05

参考資料

P54

E

(環境)

S

(社会)

- 2021年4月 ダイバーシティステートメントおよびダイバーシティビジョンを設定
- 2022年5月 2050年にカーボンニュートラルへ
温室効果ガス(GHG)排出削減長期目標を設定(詳細はp53参照)
- 2022年6月 メラミン停止によるGHG削減(26千トン、2018年度実績の約7%に相当)
- 2022年7月 気候変動対策委員会設置
- 2022年9月 「[統合レポート2022](#)」を発行

G

(ガバナンス)

- 2019年4月 指名・報酬諮問委員会設置(取締役会の任意の諮問機関)
- 2019年6月 取締役等を対象に業績連動型株式報酬制度導入(株式給付信託)
- 2021年6月 女性取締役1名選任(選任後、取締役は計10名、うち社外4名)
- 2022年6月 役員報酬体系にESG指標を組入れ(基本報酬65%、業績報酬28%、株式報酬7%
業績報酬28%のうち、利益連動部分90%、ESG連動部分10%)
- 2022年6月 「[コーポレートガバナンス報告書](#)」を更新(取締役会のスキルマトリックスを含む)

Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index

- 2022年12月
5年連続で構成銘柄に選定

Member of
**Dow Jones
Sustainability Indices**
Powered by the S&P Global CSA

S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数

- 2022年3月
4年連続で構成銘柄に選定



FTSE

- 2022年6月 FTSE4Good Index Series、FTSE Blossom Japan Indexの構成銘柄に3年連続選定
- 2022年6月 FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexの構成銘柄に選定

※ FTSE Russell (FTSE International Limited と Frank Russell Companyの登録商標)はここに日産化学株式会社が第三者調査の結果、FTSE Blossom Japan Sector Relative Index組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄となったことを証します。FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexはサステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。



MSCI 日本株女性活躍指数 (WIN)

- 2022年6月 構成銘柄に選定

**2022 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)**

※ MSCI指数への日産化学株式会社の組み入れ、および本ページにおけるMSCIロゴ、商標、サービスマーク、または指数名称の使用は、MSCIまたはその関係会社による日産化学株式会社の後援、保証、または販売促進ではありません。MSCI指数は、MSCIの独占的財産です。MSCIおよびMSCI指数の名称とロゴは、MSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

健康経営優良法人 -ホワイト500-

- 2022年3月
6年連続認定



気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD)

- 2020年8月に賛同表明



東京証券取引所「企業価値向上表彰」

- 2020年1月
表彰候補50社に2年連続選定

2027年の企業像実現のため、当社が取り組むべきマテリアリティ(重要課題)を特定
取り組みを推進することで社会とともに持続的な成長を目指す

▶▶▶1

人びとの暮らしに役立つ
新たな価値の提供

▶ 日産化学サステナブル
アジェンダ※1

社会課題解決に貢献する製品・
サービスの全売上に占める割合
55%以上維持

※1 社会課題解決に貢献する製品・サービスの提供により、
「地球と人の未来のためにできること」を追求する計画

▶▶▶2

自社事業基盤の強化

▶ 人材の確保・育成
人材育成に関する社員意識調査
肯定回答率
65%以上

▶ ダイバーシティ推進
研究所女性総合職比率 **18%以上**

▶▶▶3

レスポンシブル・ケア活動の
継続的強化

▶ GHG排出削減目標
2018年度比 **30%以上削減**

当社グループの最重要課題

コーポレート・ガバナンス、リスクマネジメント、コンプライアンスの強化

コア技術の鍛錬と育成により、4事業を通じて、社会課題解決に貢献する製品・サービスを提供する

マテリアリティ要素	主な取り組み
環境配慮型製品・サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> ■ 再生可能エネルギー拡大に貢献する材料の開発 ■ サーキュラーエコノミー実現に貢献する材料の開発 ■ 農薬散布量の削減 ■ リサイクル可能な包材の導入 ■ 排ガス除去材料の提供 ■ 浄化槽の殺菌・消毒剤及び水処理剤の提供 ■ 油脂廃棄物削減を可能にする材料の提供
スマート社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■ データ通信の大容量化・高速化、センシングに貢献する材料の提供
食料問題への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■ 食料生産の収量拡大と省力化を実現する農薬の提供 ■ 家畜の健康維持への貢献
生活の質の向上への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■ 飲料水用殺菌消毒剤の提供 ■ ペット用動物薬原薬の提供
健康問題への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■ ジェネリック医薬品の提供 ■ 医薬品受託製造・サービスの提供 ■ 再生医療分野向け材料の開発 ■ 難治性疾患治療薬の開発

コア技術の鍛錬と育成により、4事業を通じて、社会課題解決に貢献する製品・サービスを提供する

マテリアリティ要素	主な製品・サービス	2027年度目標 (2021年度比)
環境配慮型製品・サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> ■ 二次電池材料 ■ 光電変換材料 ■ CCU/CCUS材料 ■ エコプロモート ■ ラウンドノズル ULV5 ■ グリーンダイセン <ul style="list-style-type: none"> ■ アドブルー® ■ ハイライト、ウレオライト ■ ビーナソイルクリーン 	売上高 +10%
スマート社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■ ディ스플레이材料 ■ 半導体材料 ■ センサー材料 <ul style="list-style-type: none"> ■ 光配線材料 	売上高 +55%
食料問題への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■ 農薬 ■ フルララネル(家畜用) 	売上高 +15%
生活の質の向上への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■ ハイライト(飲料水用) ■ フルララネル(ペット用) 	売上高 +15%
健康問題への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■ マキサカルシトール他 ジェネリック医薬品 ■ 医薬品受託製造・サービス ■ 核酸医薬品 <ul style="list-style-type: none"> ■ FCeMシリーズ ■ prevelexシリーズ 	売上高 +5%
社会課題解決に貢献する製品・サービスの全売上に占める割合 日産化学サステナブルアジェンダ		55% 以上維持

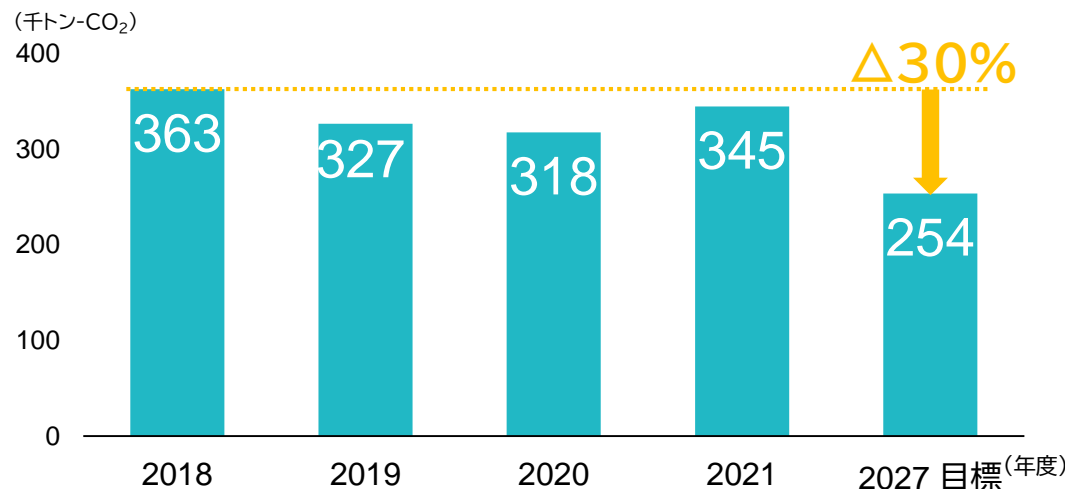
多様化・高度化する市場要求への対応力を高めるため、人的資本の充実など、事業基盤を強化する

マテリアリティ要素	主な取り組み	2027年度目標
研究開発力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ■ AIの活用による研究開発の迅速化 ■ コア技術の拡充 ■ オープンイノベーションの更なる活用 	特許出願数(2022～2027年度累計):2,500件
製品の品質向上	<ul style="list-style-type: none"> ■ 重大クレームの未然防止 ■ 品質不正・データ改ざんの未然防止 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 重大クレーム数 ゼロ件 ■ 品質教育:受講率90%以上
従業員の健康維持向上	<ul style="list-style-type: none"> ■ 生活習慣病対策の推進 ■ メンタルヘルス対策の実施 ■ 社員への健康維持に関する啓蒙活動 ■ 女性の健康づくり推進 	適正体重者※:70%以上 ※BMI(肥満度)指数:18.5-25.0
働きやすい職場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ■ ワークライフバランスの推進 ■ ハラスメント対策の実施 ■ 育児・介護支援、男性育休取得推奨 	年次有給休暇取得率:80%以上
人材の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新人事制度(役割等級制度)導入 ■ キャリア開発強化 ■ 自己啓発支援プログラムの充実 	人材育成に関する社員意識調査 肯定回答率:65%以上
ダイバーシティの推進	<ul style="list-style-type: none"> ■ 女性の活躍推進 ■ 外国人留学生の採用 ■ 障がい者雇用の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 総合職に占める女性比率:13%以上 ■ 研究所女性総合職比率:18%以上
公正な取引の推進	<ul style="list-style-type: none"> ■ 公正な取引に関する社内研修会の開催、その他の教育啓蒙活動の実施 ■ コンプライアンス教育啓蒙活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 独禁法違反ゼロ ■ 外国公務員贈賄ゼロ
サステナブル調達への推進	<ul style="list-style-type: none"> ■ サステナブル調達アンケート結果のフィードバック ■ 当社基準未達サプライヤーへの改善支援 	当社基準未達サプライヤーへの改善支援:90%以上
気候変動への適応	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自然災害発生時における事業活動のレジリエンス維持向上 	経常利益50%を占める製品のBCP更新整備

2050年のカーボンニュートラル実現に向け、GHG排出量の削減を中心にレスポンシブル・ケア活動に継続的に取り組む

マテリアリティ要素	主な取り組み	2027年度目標
気候変動の緩和	<ul style="list-style-type: none"> ■ GHG排出量の削減 	GHG排出量:2018年度比30%削減 (2030年度目標を3年前倒し)
労働安全衛生の推進	<ul style="list-style-type: none"> ■ 労働安全マネジメントの強化 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 休業災害ゼロ ■ 労災件数:2020年度比半減
生物多様性への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ■ 生物多様性保全活動の推進 	日産化学本社工場におけるバイオパーク設置・運営
化学物質の管理	<ul style="list-style-type: none"> ■ 化学物質使用に関する法令遵守 	重大法令違反ゼロ継続
産業廃棄物・汚染物質の排出削減	<ul style="list-style-type: none"> ■ 産業廃棄物・汚染物質最終処分量の削減 	日産化学本社工場での最終処分割合削減 (2020年度比)
保安・防災	<ul style="list-style-type: none"> ■ 保安防災マネジメントの強化 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 火災・爆発・外部漏洩ゼロ ■ 保安事故ゼロ

- 2050年のカーボンニュートラル実現に向け、従来の取り組みに加え、生産技術の改善や再生エネルギー導入などに注力する
- 2021年度のGHG排出量は、2020年度比で27千トン-CO₂増加
 (増加要因)
 - ・アンモニア系製品の生産量増加により、製造時のCO₂排出量、天然ガス使用量、電力使用量の増加
 - ・硝酸製品の生産量増加により、製造時のN₂O排出量の増加
 - ・富山共同自家発電の工事(水力発電供給減少)により、非再生可能電力の使用量増加



他社とのGHG排出量の比較

(千トン-CO₂)

年度	2011	2018	2019	2020	2021
日産化学	448	363	327	318	345
大手総合化学4社平均 (単体ベース)	-	-	5,845	5,581	-

中期経営計画 Vista2027 (2022-2027年度)における取り組み

- 硝酸プラントからのN₂O排出ゼロ
(予定投資額 500百万円 変動費50百万円/年)
- メラミン製造中止
- 小野田工場燃料転換
- ICP本格導入によるGHG排出削減推進
- フロン機器の削減
- 省エネ機器への更新

Contents

01

2022年度第3四半期 連結決算報告

P3

02

2022年度通期 業績予想

P11

03

セグメント概況

P16

04

ESGトピックス

P45

05

参考資料

P54

中期経営計画 Vista2027(2022-2027年度)

セグメント別 売上高・営業利益

(億円)

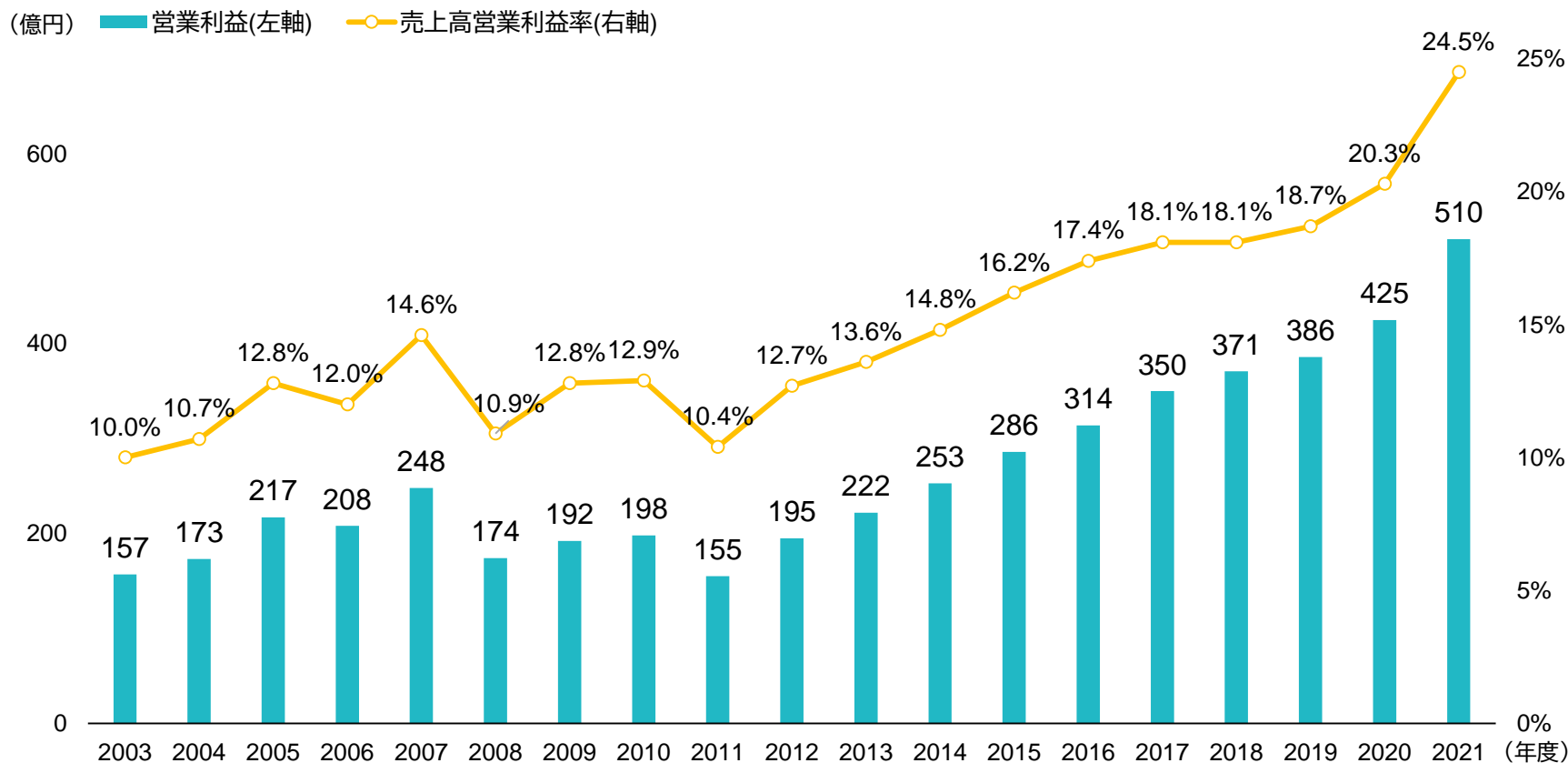
		2021年度 実績 ^{※1}	2022年度 (2023年2月 発表予想)	2024年度 中計	2027年度 中計	2024年度 vs. 2021年度	2027年度 vs. 2021年度
化学品	売上高	376	397	376	401	0	+25
	営業利益	38	17	35	39	-3	+1
機能性材料	売上高	817	835	1,029	1,172	+212	+355
	営業利益	276	262	321	380	+45	+104
農業化学品	売上高	658	814	778	823	+120	+165
	営業利益	181	235	217	210	+36	+29
ヘルスケア	売上高	66	66	72	115	+6	+49
	営業利益	28	29	21	43	-7	+15
卸売・その他・ 調整額	売上高	163	183	295	339	+132	+176
	営業利益	-13	-9	-9	-2	+4	+11
企画本部 ^{※2}	売上高	0	0	13	44	+13	+44
	営業利益	-49	-55	-47	-47	+2	+2
合計	売上高	2,080	2,295	2,550	2,850	+470	+770
	営業利益	510	534	585	670	+75	+160

※1 2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p68,p69参照) ※2 企画本部は卸売・その他・調整額の内数

(億円)

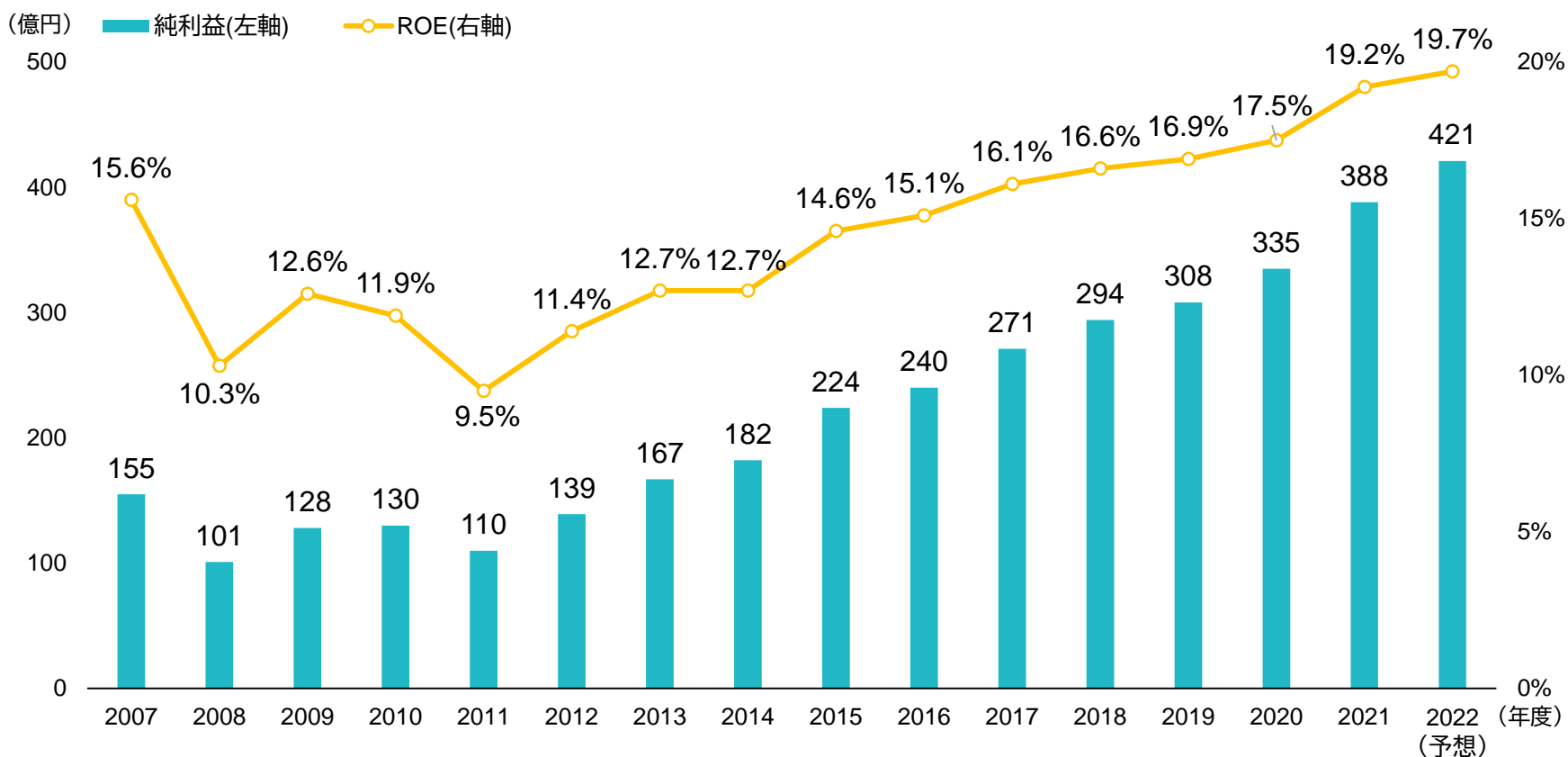
		2024年度 中計	2027年度 中計
ヘルスケア事業部の組織改定の影響			
研究開発費	企画本部移管影響	13	13

- 長期にわたり安定的かつ高い売上高営業利益率を維持(2003年度以降19年連続10%以上)
- 2021年度実績は24.5%



※ 2021年度実績:会計方針の変更影響を含む(p67参照)

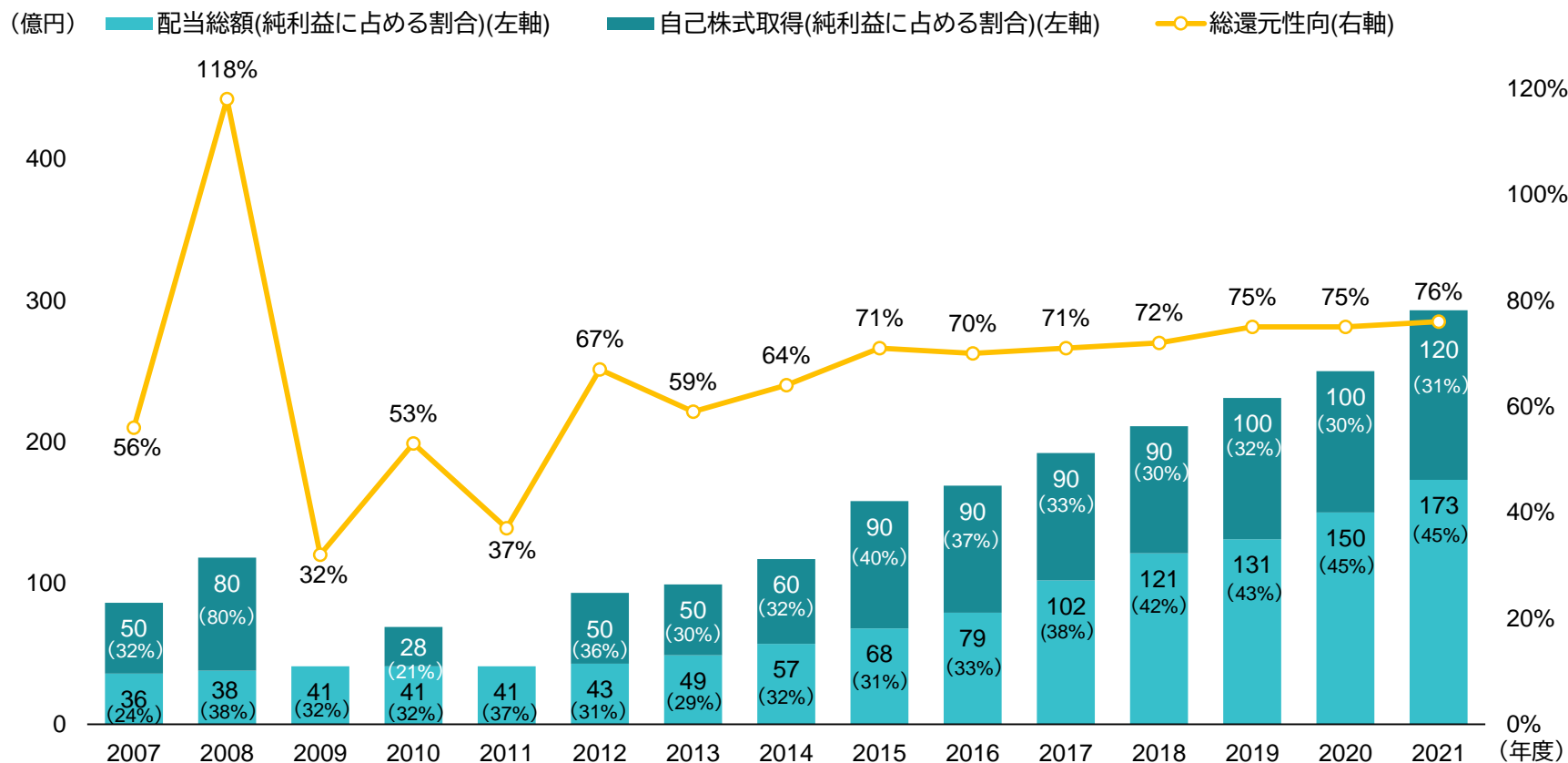
- ROEを従前より最重要の経営指標とし、高水準を維持
- 前中期経営計画(2019-2021年度)では16%以上維持を目標に掲げ、達成
- 新中期経営計画(2022-2027年度)では18%以上維持が目標
- 2022年度予想は19.7%



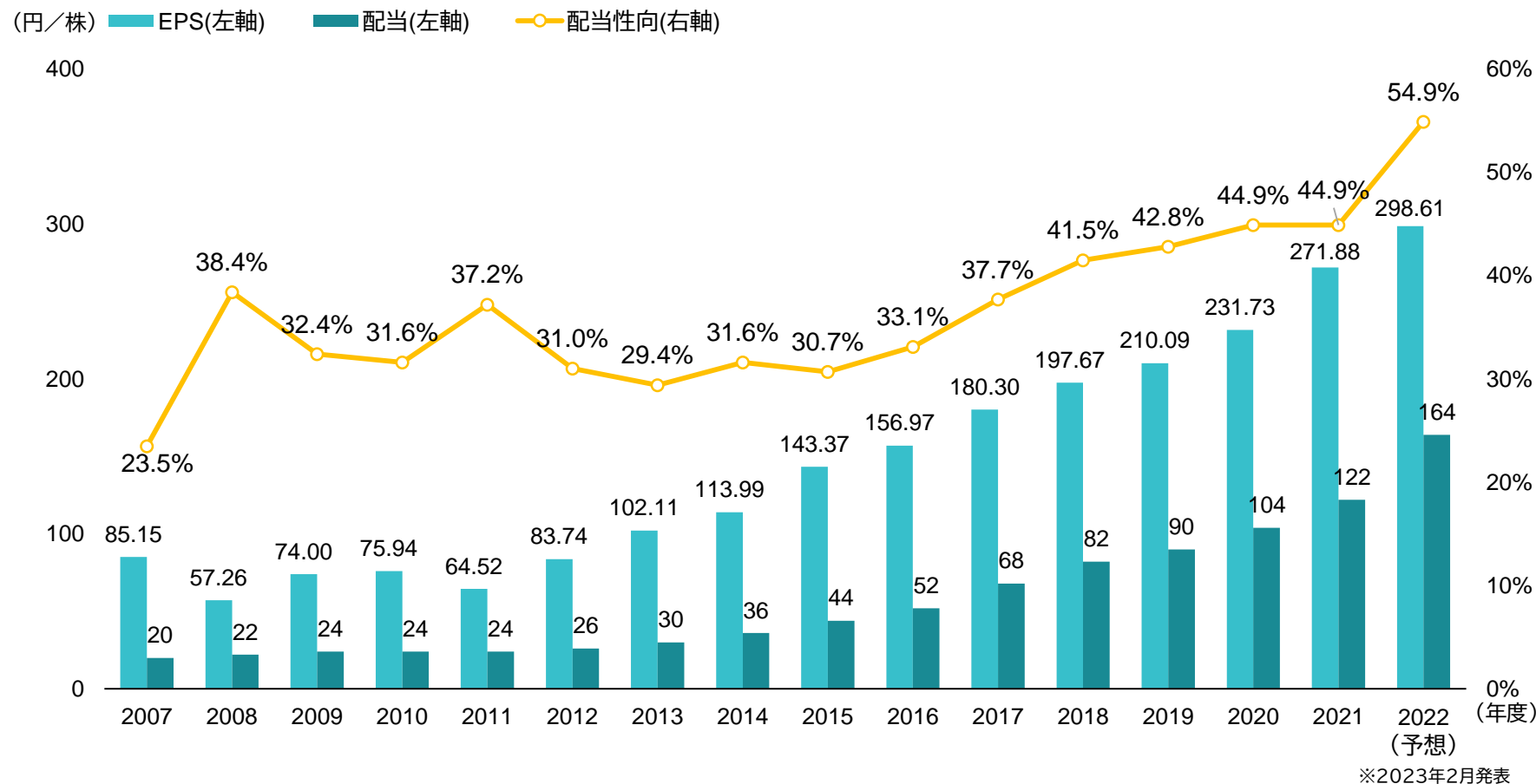
※2023年2月発表

株主還元 総還元性向

- 配当と自己株式取得による株主還元の結果、総還元性向は60%-70%で推移
- 前中期経営計画(2019-2021年度)では、2019年度72.5%、2020年度以降75%が目標で、全て達成(2021年度実績は76%)
- 新中期経営計画(2022-2027年度)では75%が目標



- 2015年度30.7%から段階的に引き上げ、2021年度実績は44.9%
- 新中期経営計画(2022-2027年度)では45%から55%に引き上げ、直接的な株主還元をより重視
- 2012年度以降2021年度まで10期連続増配



ROE向上を目的に2006年度より開始。2006-21年度取得総額1,045億円、4,475万株(取得開始前発行済株式の23.8%)。取得株はすべて消却済。今後も自己株式を継続的に取得し、株主還元を強化

2006-2021年度 自己株式取得実績(2009年度、2011年度は自己株式取得なし)

年度	2006	2007	2008	2010	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	合計
自己株式取得総数(千株) ^{※1}	3,500	3,399	7,355	2,167	6,372	3,263	2,764	3,333	2,621	2,292	1,682	2,138	1,829	2,033	44,748
取得価額総額(億円) ^{※1}	47	50	80	28	50	50	60	90	90	90	90	100	100	120	1,045
自己株式消却総数(千株)	3,000	3,635	7,000	3,000	6,000	4,000	3,000	2,000	2,000	3,000	2,000	3,000	1,000	2,000	44,635
発行済株式総数(百万株)	185	181	174	171	165	161	158	156	154	151	149	146	145	143	-
期末自己株式数(千株) ^{※2}	1,367	1,233	1,660	885	1,258	522	287	1,621	2,242	1,535	1,218	523	1,352	1,384	-
株主総還元性向 (配当+自己株式取得)(%)	60	56	118	53	67	59	64	71	70	71	72	75	75	76	-

2018-2022年度 自己株式取得・消却状況

年度	2018			2019			2020			2021			2022	
	上期	下期	年間	上期	下期	年間	上期	下期	年間	上期	下期	年間	上期実績	2023年2月13日~4月21日 ^{※4}
自己株式取得総数(千株) ^{※1}	976	706	1,682	1,270	868	2,138	1,334	495	1,829	1,262	771	2,033	683	1,000(上限)
取得価額総額(億円) ^{※1}	50	40	90	60	40	100	70	30	100	70	50	120	50	40(上限)
自己株式消却総数(千株) ^{※3}	2,000	0	2,000	2,000	1,000	3,000	1,000	0	1,000	2,000	0	2,000	1,700	

※1 単元未満株式買取、業績連動型株式報酬制度導入に伴う自己株式取得を除く

※2 単元未満株式、業績連動型株式報酬制度導入に伴う自己株式取得を含む

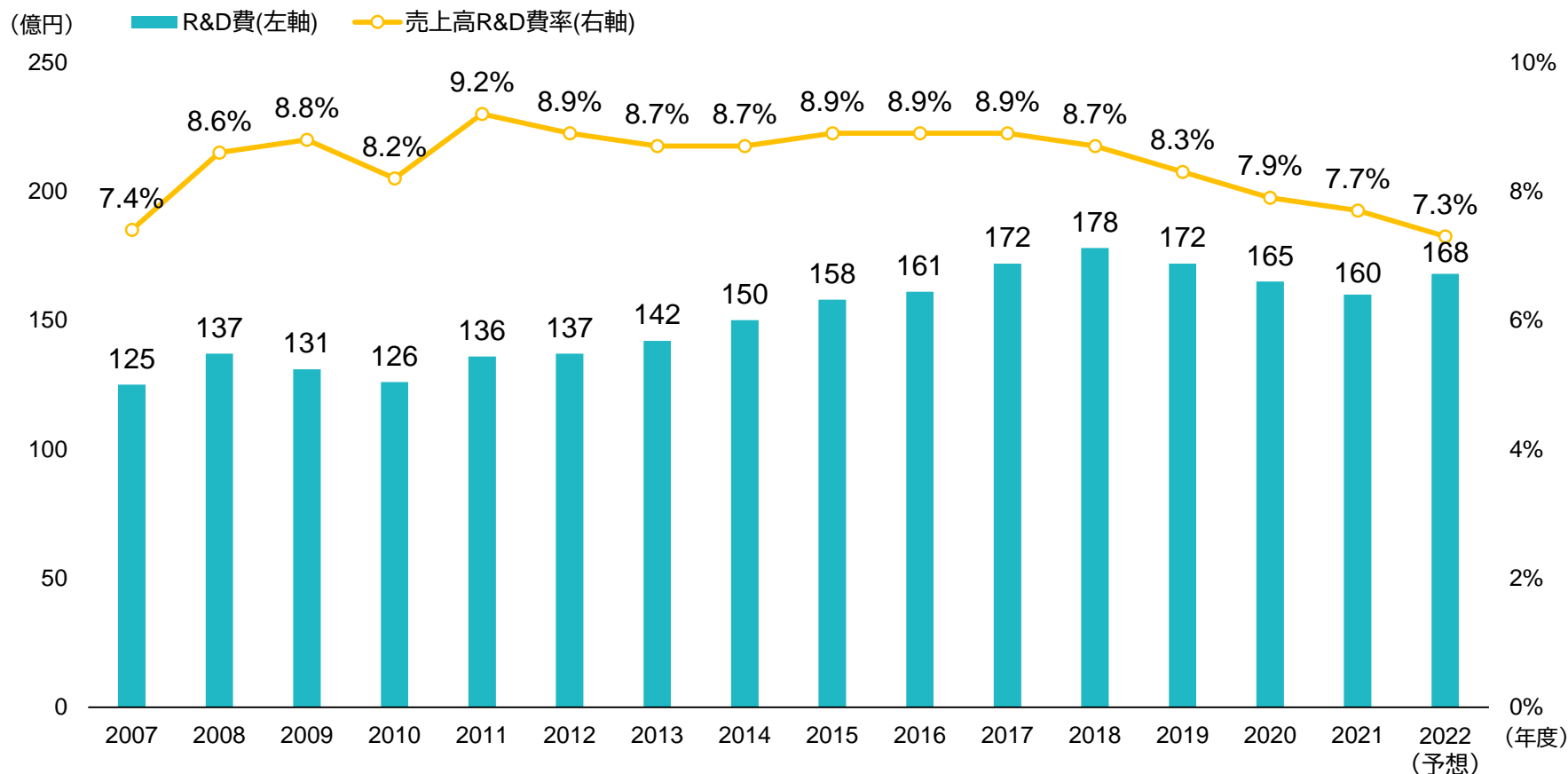
※3 2022年度上期の自己株式消却は、2022年5月10日及び8月31日消却分

※4 2023年2月10日発表

キャッシュマネジメント(単体ベース)

目標現預金残高水準 = 必要下限額 + 流動性リスク対応 [1/3×(長期借入金年間返済予定額 + 短期借入残)] + 偶発リスク対応

- 独自の革新的技術で社会の要請に応える未来創造企業として、研究開発を重視
- 売上高研究開発費率は7-9%と高水準を維持



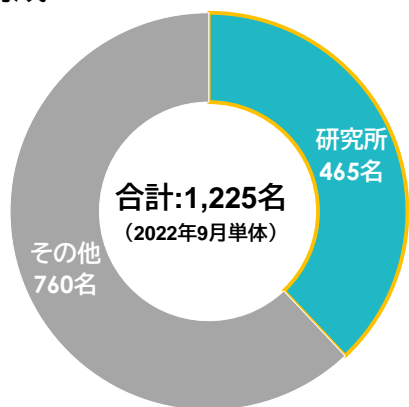
※2023年2月発表

- R&Dに多額の投資を行ってもなお、会社全体で高い営業利益率を確保
- 総合職の約40%は研究開発に関わる人材

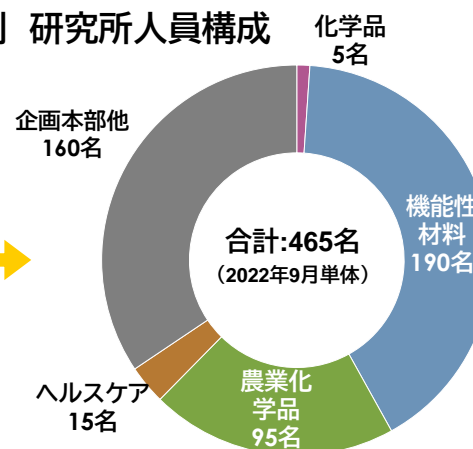
セグメント別研究開発費

セグメント	2022年度 予想(2023年2月発表)				
	売上高 (億円)	営業利益 (億円)	売上高 営業利益率	R&D費 (億円)	売上高 R&D費率
化学品	397	17	4.3%	3	0.8%
機能性材料	835	262	31.4%	73	8.7%
農業化学品	814	235	28.9%	44	5.4%
ヘルスケア	66	29	43.9%	6	9.1%
企画本部他	-	-	-	42	-
合計(企画本部他含む)	2,295	534	23.3%	168	7.3%

総合職 人員構成



セグメント別 研究所人員構成



※ 表記している人数は概数

長期業績推移

(億円)

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022 (予想)
売上高	1,559	1,614	1,691	1,744	1,692	1,602	1,490	1,542	1,486	1,538	1,637	1,712	1,769	1,803	1,934	2,049	2,068	2,091	2,080	2,295
営業利益	157	173	217	208	248	174	192	198	155	195	222	253	286	314	350	371	386	425	510	534
経常利益	146	174	213	212	244	169	192	194	159	205	237	264	295	317	362	391	400	439	537	555
純利益	87	113	137	140	155	101	128	130	110	139	167	182	224	240	271	294	308	335	388	421
EBITDA	261	269	316	305	345	276	301	303	259	291	308	338	383	403	455	480	492	530	612	649
売上高営業利益率	10.0%	10.7%	12.8%	12.0%	14.6%	10.9%	12.8%	12.9%	10.4%	12.7%	13.6%	14.8%	16.2%	17.4%	18.1%	18.1%	18.7%	20.3%	24.5%	23.3%
ROE	13.4%	15.2%	16.1%	14.7%	15.6%	10.3%	12.6%	11.9%	9.5%	11.4%	12.7%	12.7%	14.6%	15.1%	16.1%	16.6%	16.9%	17.5%	19.2%	19.7%
EPS(円/株)	46.21	59.77	72.73	75.43	85.15	57.26	74.00	75.94	64.52	83.74	102.11	113.99	143.37	156.97	180.30	197.67	210.09	231.73	271.88	298.61
配当(円/株)	11	11	15	20	20	22	24	24	24	26	30	36	44	52	68	82	90	104	122	164
配当性向	23.8%	18.4%	20.6%	26.5%	23.5%	38.4%	32.4%	31.6%	37.2%	31.0%	29.4%	31.6%	30.7%	33.1%	37.7%	41.5%	42.8%	44.9%	44.9%	54.9%
自己株式取得	-	-	-	47	50	80	-	28	-	50	50	60	90	90	90	90	100	100	120	-
総資産	1,726	1,694	1,832	1,773	1,727	1,723	1,814	1,834	1,901	1,992	2,080	2,239	2,282	2,317	2,460	2,470	2,495	2,655	2,797	-
純資産	704	800	936	993	1,012	968	1,077	1,124	1,196	1,267	1,378	1,513	1,569	1,637	1,764	1,821	1,855	2,006	2,080	-
現預金	59	43	85	110	76	97	148	211	279	319	308	313	353	357	377	362	306	324	347	-
有利子負債	574	446	415	324	344	455	421	399	389	381	361	351	331	308	286	266	246	227	227	-
自己資本比率	40.1%	46.4%	50.2%	55.3%	58.0%	55.5%	58.7%	60.7%	62.4%	63.0%	65.7%	66.9%	68.1%	69.9%	71.0%	73.0%	73.7%	74.9%	73.6%	-
設備投資	66	66	92	121	109	139	101	96	83	79	88	98	102	143	137	99	157	158	110	206
減価償却費	104	96	99	97	97	102	110	104	105	95	85	85	97	89	105	109	105	104	102	113
R&D	87	86	92	99	125	137	131	126	136	137	142	150	158	161	172	178	172	165	160	168
同 売上高比率	5.6%	5.3%	5.4%	5.7%	7.4%	8.6%	8.8%	8.2%	9.2%	8.9%	8.7%	8.7%	8.9%	8.9%	8.9%	8.7%	8.3%	7.9%	7.7%	7.3%

※ 2021- :会計方針の変更影響を含む(p67参照)
 ※ 2022(予想):2023年2月発表

セグメント別売上高・営業利益推移

売上高(A)

(億円)

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022 (予想)
化学品	381	369	345	355	343	343	348	349	357	343	319	376	397
機能性材料	380	340	374	428	494	518	528	588	630	655	716	817	835
農業化学品	344	338	354	391	457	475	520	581	627	640	638	658	814
ヘルスケア	96	100	127	116	88	87	80	75	70	70	67	66	66
卸売	441	448	466	507	544	556	552	595	679	679	698	804	989
その他	270	200	212	214	209	209	240	215	246	224	238	236	281
調整額	-370	-309	-340	-374	-423	-419	-465	-469	-560	-543	-585	-877	-1,087
合計	1,542	1,486	1,538	1,637	1,712	1,769	1,803	1,934	2,049	2,068	2,091	2,080	2,295

営業利益(B)

化学品	24	16	19	19	19	39	38	34	30	13	15	38	17
機能性材料	79	48	72	88	120	120	125	142	150	170	224	276	262
農業化学品	48	44	50	62	92	108	132	164	184	193	182	181	235
ヘルスケア	44	46	52	49	23	20	17	12	10	9	4	28	29
卸売	14	13	14	15	17	18	17	18	20	21	25	29	33
その他	10	3	7	8	6	5	10	6	9	7	8	7	9
調整額	-21	-15	-19	-19	-24	-24	-25	-26	-32	-27	-33	-49	-51
合計	198	155	195	222	253	286	314	350	371	386	425	510	534

営業利益率(B)/(A)

化学品	6.3%	4.3%	5.5%	5.4%	5.5%	11.4%	10.9%	9.7%	8.4%	3.8%	4.7%	10.1%	4.3%
機能性材料	20.8%	14.1%	19.3%	20.6%	24.3%	23.2%	23.7%	24.1%	23.8%	26.0%	31.3%	33.8%	31.4%
農業化学品	14.0%	13.0%	14.1%	15.9%	20.1%	22.7%	25.4%	28.2%	29.3%	30.2%	28.5%	27.5%	28.9%
ヘルスケア	45.8%	46.0%	40.9%	42.2%	26.1%	23.0%	21.3%	16.0%	14.3%	12.9%	6.0%	42.4%	43.9%
卸売	3.2%	2.9%	3.0%	3.0%	3.1%	3.2%	3.1%	3.0%	2.9%	3.1%	3.6%	3.6%	3.3%
その他	3.7%	1.5%	3.3%	3.7%	2.9%	2.4%	4.2%	2.8%	3.7%	3.1%	3.4%	3.0%	3.2%
合計	12.9%	10.4%	12.7%	13.6%	14.8%	16.2%	17.4%	18.1%	18.1%	18.7%	20.3%	24.5%	23.3%

セグメント資産 (2021年度)(D)

化学品	320
機能性材料	553
農業化学品	908
ヘルスケア	83
卸売	315
その他	122
調整額	496
合計	2,797

ROA(2021年度) (B)/(D)

化学品	11.9%
機能性材料	49.9%
農業化学品	19.9%
ヘルスケア	33.7%
卸売	9.2%
その他	5.7%
合計	18.2%

※ 2010-11:旧セグメント(2011年6月組織変更前), 2012-:新セグメント(2011年6月組織変更後)

※ 売上高はセグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ 2021-:会計方針の変更による売上高減少を含む(p67参照)

※ 卸売:日産産業、その他:日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・日本肥糧ほか、調整額:企画本部ほか

※ 企画本部の2021年度実績、2022年度予想(2023年2月発表)の売上高・営業利益はp55に記載

※ 2022年4月に組織改定を実施。2013~2020年度実績は旧セグメント区分、2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p68,p69参照)

※ 2022(予想):2023年2月発表

※ 2019-22予想:新方式セグメント別営業利益

1. 2020年度より変更(売上高は変更なし)

2. 2019年度は遡及して再計算

3. 連結調整(固定資産未実現利益、棚卸資産未実現利益など)は、旧方式では各セグメントに配賦していたが、新方式では各セグメントに配賦せず調整額で一括処理

セグメント別売上高 四半期推移(2019年度～2022年度業績予想)

(億円)

	2019年度 実績					2020年度 実績					2021年度 実績					2022年度 業績予想 (2023年2月発表)					2022年度 予想 (2022年11月発表)	
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q 実績	2Q 実績	3Q 実績	4Q	年間	3Q	4Q
化学品	84	84	87	88	343	74	73	83	89	319	88	83	105	100	376	104	94	101	98	397	110	116
ファインケミカル	26	26	26	27	105	27	27	28	32	114	32	30	37	32	131	42	35	33	32	142	40	46
基礎化学品	58	58	61	61	238	47	46	55	57	205	56	53	68	68	245	62	59	68	66	255	70	70
機能性材料	151	163	170	171	655	171	175	192	178	716	200	196	209	212	817	218	202	206	209	835	227	245
農業化学品	147	132	55	306	640	146	111	63	318	638	134	116	119	289	658	197	160	131	326	814	113	322
ヘルスケア	19	15	16	20	70	15	15	14	23	67	11	22	20	13	66	17	15	16	18	66	17	17
ヘルスケア	14	7	9	10	41	7	8	6	8	29	6	8	5	6	25	8	6	4	6	23	4	5
ファインテック	5	8	6	10	29	8	7	8	15	38	4	15	14	8	41	8	10	12	12	43	13	11
卸売	175	158	175	171	679	182	155	178	183	698	178	186	222	218	804	237	240	270	243	990	238	242
その他	49	49	51	75	224	48	46	68	76	238	49	55	61	71	236	65	59	67	89	280	67	89
調整額	-138	-123	-139	-143	-543	-143	-123	-161	-158	-585	-195	-205	-241	-236	-877	-255	-258	-294	-280	-1,087	-275	-281
合計	487	478	415	688	2,068	493	452	437	709	2,091	465	453	495	667	2,080	583	512	497	703	2,295	497	750

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ ヘルスケアセグメントでは、億円未満を四捨五入して表示しており、これにより合計値が合わない場合がある

※ 2020年度より、ファインオキシコールを基礎化学品からファインケミカルへ移管している

※ 卸売：日産産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・日本肥糧ほか、調整額：企画本部ほか

※ 企画本部の2021年度実績値、2022年度予想値(2023年2月発表)はp55に記載

2022年度予想値(2022年11月発表)は2022年11月発表 2022年度2Q決算説明資料p69を参照

※ 2022年4月に組織改定を実施。2019～2020年度実績は旧セグメント区分(p68,p69参照)

セグメント別営業利益 四半期推移(2019年度～2022年度業績予想)

(億円)

	2019年度 実績					2020年度 実績					2021年度 実績					2022年度 業績予想 (2023年2月発表)					2022年度 予想 (2022年11月発表)	
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q 実績	2Q 実績	3Q 実績	4Q	年間	3Q	4Q
化学品	9	-6	5	5	13	7	-8	7	9	15	13	-1	13	13	38	17	-6	4	2	17	9	5
機能性材料	40	44	47	39	170	53	54	63	54	224	69	62	76	69	276	79	60	69	54	262	81	83
農業化学品	45	49	-18	117	193	40	38	-13	117	182	40	29	30	82	181	68	53	31	83	235	16	82
ヘルスケア	4	1	1	3	9	-1	1	0	4	4	3	11	9	5	28	8	7	6	8	29	7	6
ヘルスケア	2	-2	-2	0	-1	-2	-1	-4	-2	-9	2	3	2	2	8	4	2	1	1	9	2	1
ファインテック	2	3	2	4	11	2	2	3	6	13	1	8	8	3	20	4	5	6	6	20	5	6
卸売	5	5	6	5	21	7	5	7	6	25	7	6	9	7	29	10	9	10	4	33	5	4
その他	1	0	1	5	7	0	0	4	4	8	1	-1	2	5	7	1	0	2	6	9	3	6
調整額	-11	-6	-7	-3	-27	-8	-8	-12	-5	-33	-14	-12	-13	-10	-49	-10	-14	-16	-11	-51	-22	-12
合計	93	87	35	171	386	98	82	56	189	425	119	94	126	171	510	173	109	106	146	534	99	174

※ ヘルスケアセグメントでは、億円未満を四捨五入して表示しており、これにより合計値が合わない場合がある

※ 卸売：日産産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・日本肥糧ほか、調整額：企画本部ほか

※ 企画本部の2021年度実績値、2022年度予想値(2023年2月発表)はp55に記載

2022年度予想値(2022年11月発表)は2022年11月発表 2022年度2Q決算説明資料p69を参照

※ 2022年4月に組織改定を実施。2019～2020年度実績は旧セグメント区分、2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p68,p69参照)

会計方針の変更(2021年度～)

2021年度より会計方針を変更。本ページは2022年5月発表 2021年度決算説明資料から変更なし

1. 方針の変更

「収益認識に関する会計基準(企業会計基準29号)」を適用

2. 適用時期 2021年4月1日より

3. 方針変更に伴うPL、BSへの主な影響

2021年度のPLへの影響額(前年同期比)

(億円)

	2021実績						
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高の増減※1	-35	-74	-109	-17	-103	-120	-229
営業利益の増減※2	+12	-21	-9	+40	-32	+8	-1

※1 (1)代理人取引、(2)売上高を基礎としたロイヤリティ収入、(3)変動対価、の影響合計

※2 (2)売上高を基礎としたロイヤリティ収入、(3)変動対価、の影響合計

(1) 代理人取引

主たる適用セグメント	化学品、農業化学品、卸売
適用後	売上総利益額見合の売上高のみ表示(適用前は売上高、売上原価を総額で表示)
2021年度PLへの影響額	<ul style="list-style-type: none"> 売上高、売上原価がそれぞれ228億円減少、営業利益には影響せず 各セグメントの売上高には影響させず、「調整額」で控除

(2) 売上高を基礎としたロイヤリティ収入

主たる適用セグメント	農業化学品(動物薬ロイヤリティ収入)
適用前(2020年度まで)	MSD社※ 1-6月売上高見合を8月、7-12月売上高見合を翌年2月に計上
適用後(2021年度より)	MSD社※ 1-3月売上高見合を5月、4-6月売上高見合を8月、7-9月売上高見合を11月、10-12月売上高見合を翌年2月に計上

※ MSD社:米国メルク社のアニマルヘルス事業部門のMSD Animal Health 社の略称

(3) 変動対価(販売時点では変動する可能性のある売上値引など)

主たる適用セグメント	農業化学品
適用後	<ul style="list-style-type: none"> 売上期間に応じて見積もり計上(適用前は金額確定時に計上) 適用前に比べ、値引額は1Q増加(マイナス影響)、2Q減少、上期増加、下期減少、年間ほぼなし、の傾向
2021年度BSへの影響額	2021年度期首利益剰余金(BS項目)が2020年度の遡及修正で15億円減少(税効果反映後)
適用前(2020年度)	2020農年(2019年10月-2020年9月)の売上見合い値引きのみ計上
適用後(2020年度)	上記に加え、2020年10月-2021年3月の売上見合い値引き15億円追加計上

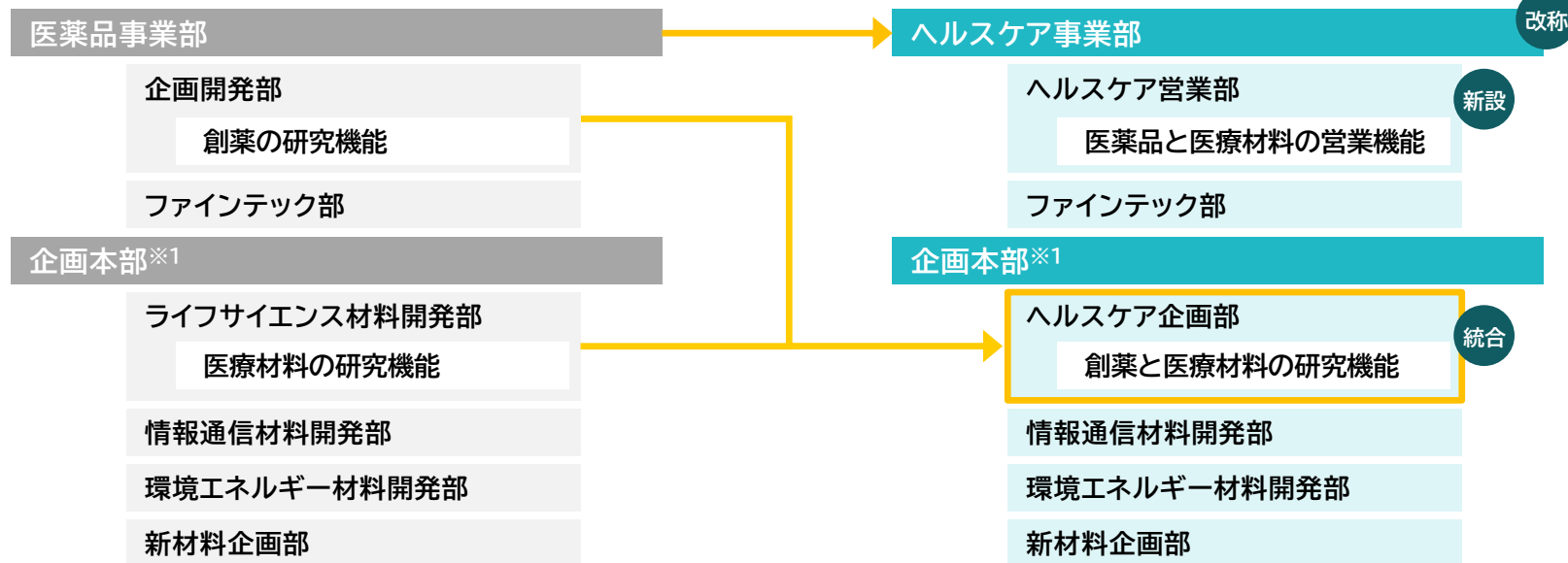
事業環境の変化を適切にとらえながら中長期的な成長を実現していくため、2022年4月1日付で以下の組織改定を実施(2022年8月発表 2022年度1Q決算説明資料から変更なし)

医薬品事業部および企画本部※1ライフサイエンス材料開発部の組織改定

目的 創薬・医療材料の機能統合(研究機能を企画本部※1。営業機能をヘルスケア事業部)

改定前

改定後



※1 企画本部は、セグメントでは「調整額」に含まれる。
 企画本部の2021年度実績および2022、2024、2027年度予想の売上高・営業利益はp55に記載

本ページは2022年8月発表 2022年度1Q決算説明資料から変更なし

(億円)

	2021年度 実績 (組織改定前ベース)					2021年度 実績 (組織改定後ベース)					組織改定 前後差				
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間
化学品	13	-1	13	13	38	13	-1	13	13	38	0	0	0	0	0
機能性材料	70	62	76	69	277	69	62	76	69	276	-1	0	0	0	-1
農業化学品	41	29	31	82	183	40	29	30	82	181	-1	0	-1	0	-2
ヘルスケア	-2	7	4	0	9	3	11	9	5	28	+5	+4	+5	+5	+19
ヘルスケア	-3	-2	-3	-3	-11	2	2	2	2	8	+5	+4	+5	+5	+19
ファインテック	1	8	8	3	20	1	8	8	3	20	0	0	0	0	0
卸売	7	6	8	8	29	7	6	8	8	29	0	0	0	0	0
その他	1	-1	2	5	7	1	-1	2	5	7	0	0	0	0	0
調整額	-11	-8	-8	-6	-33	-14	-12	-12	-11	-49	-3	-4	-4	-5	-16
合計	119	94	126	171	510	119	94	126	171	510	0	0	0	0	0

※1 2021年度実績(組織改定前)のヘルスケアの数字は、旧医薬品セグメント

※2 ヘルスケアセグメントでは、億円未満を四捨五入して表示しており、これにより合計値が合わない場合がある

※3 卸売：日星産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・日本肥糧ほか、調整額：企画本部ほか

※4 企画本部の2021年度実績、2022年度予想(2023年2月発表)の売上高・営業利益はp55に記載

※5 売上高は、組織改定の影響なし

新中期経営計画の実現に向け、事業領域の選択と集中を加速
(2022年5月発表 2021年度決算説明資料から変更なし)

注力する事業領域	主な取り組み
ヘルスケア	核酸医薬 <ul style="list-style-type: none"> 当社独自の核酸創薬基盤技術を活用し、資源の8割を投入 製薬各社との共同創薬の着実な推進及びルクサナバイオテック株式会社との戦略的提携(核酸標的7テーマ確保)
	低分子医薬 <ul style="list-style-type: none"> 創薬ベンチャーとの協業(10から3テーマに)、AI活用(既存創薬からの転換)
	医療材料 <ul style="list-style-type: none"> 生体界面制御材料、化粧品材料等
ファインテック	既存ビジネスモデルの強化に加え、共同開発も指向(ペプチド等)

資源投入

(人、概数)

	2021実績	2022予想 (2022年5月発表)	2024中計	2027中計
研究者数	75	15	20	20
ヘルスケア	65	5	5	5
ファインテック	10	10	15	15
参考 企画本部ヘルスケア研究者数	35	90	85	90

(億円)

	2021実績	2022予想 (2022年5月発表)	2024中計	2027中計
研究開発費	21.3	7.4	10.3	11.2
ヘルスケア	18.0	3.1	5.2	5.3
ファインテック	3.3	4.3	5.1	5.9
参考 企画本部移管影響 (B)	-	14.5	12.6	12.7

計数計画

(億円)

	2021実績	2022予想 (2022年5月発表)	2024中計	2027中計
売上高	66.3	59.4	72.3	114.8
ヘルスケア				
既存製品	24.2	21.3	11.3	9.0
新製品	0.4	0.0	4.4	20.8
ファインテック				
既存製品	41.7	38.1	50.6	57.9
新製品	0.0	0.0	6.0	27.1
営業利益 (A)	9.5	20.9	21.5	42.9
ヘルスケア	-10.7	5.3	-7.0	-1.0
ファインテック	20.2	15.6	28.5	43.8
参考 企画本部移管前の実質営業利益 (A)-(B)	9.5	6.4	8.9	30.2

※ 2021年度実績のヘルスケアの数字は、旧医薬品セグメント(組織改定前)

セグメント	製品名	主用途			
化学品	ファインケミカル	デビック	エポキシ樹脂： ソルダーレジストインク材料、LED封止材材料、粉体塗料硬化剤		
		メラミンシアヌレート	難燃剤		
		ハイライト	塩素化イソシアヌル酸： プール、浄化槽用殺菌消毒剤		
		ファインオキソコール	化粧品原料、潤滑油原料、電子材料用接着剤原料		
	基礎化学品	メラミン	合板用接着剤		
		アドブルー®	ディーゼル車排ガス浄化用高品位尿素水		
		高純度硫酸	半導体用洗浄剤		
機能性材料	電子材料	サンエパー	液晶配向材用ポリイミド		
		ARC®(KrF, ArF)	半導体用反射防止コーティング材		
		OptiStack®(多層材料)	半導体用多層プロセス材料(Si-HM, SOC)		
		OPTIFOCUS	イメージセンサー用マイクロレンズ材料		
		エルソース	有機EL用塗布型ホール注入材		
	無機コロイド	スノーテックス	コロイダルシリカ： 研磨材(シリコンウェハー、化合物半導体、半導体CMP等)、特殊鋼板		
		オルガノゾル・モノマーゾル	有機溶媒・モノマー分散シリカゾル： フィルム表面処理、電子機器、樹脂添加剤		
		アルミナゾル	自動車用触媒、電子機器		
		サンコロイド	眼鏡レンズ用高屈折率ゾル		
		セルナックス	フィルム用帯電防止		
		オイル&ガス材料	シェールオイル・ガス採掘効率向上材		
		農業化学品	除草剤	タルガ	大豆、なたね、てんさい
				パーミット	とうもろこし、さとうきび、稲
				シリウス	稲
ラウンドアップ	非選択性茎葉処理除草剤： 非農耕地、果樹園				
アルデア	稲				
殺虫剤	サンマイル、マイルコーネ、スターマイル		果樹、かんきつ、茶、野菜		
	グレーシア		野菜、茶		
殺菌剤	バルサー、イカルガ、グレータム(チフルザミド)		ばれいしよ、稲、芝		
	ライメイ		ばれいしよ、野菜、ブドウ		
	クインテック(キノキシフェン)	果樹、野菜			
	ダイセン(マンゼブ)	果樹、野菜			
動物医薬品	フルララネル	ペット用外部寄生虫薬ブラベクト、鶏用ワクモ駆除剤EXZOLT原薬			
	ヘルスケア	リパロ原薬	高コレステロール血症治療薬		
	ファインテック	課題解決型受託事業およびジェネリック製品開発			

※ アドブルー®はドイツ自動車工業会(VDA)の登録商標

※ ARC®およびOptiStack®はBrewer Science, Inc. の登録商標

本資料に記載されている将来の当社事業に関する見通しは、資料作成時点で入手可能な情報に基づいて当社が判断したものであり、将来の当社業績を保証するものではありません。様々な不確実要素により、実際の業績は予測と大きく異なる結果になる可能性があります。

また、本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断で行われるようお願いいたします。

本決算説明資料に掲載されている全てのコンテンツは、日産化学株式会社が所有しています。
